

幼児の教育

第四十九卷

第一號



一月號

日本幼稚園協會

新 學 期 用 品

自由画帳 定價二〇圓

送料6圓、40冊まで55圓

おさいく帳 定價二三圓

送料6圓、50冊まで55圓

ぬり え 大判定價三〇圓

送料6圓、40冊まで55圓

ぬりえ(初級) 定價二五圓

送料6圓、50冊まで55圓

ぬりえ(上級) 定價二五圓

日本幼稚園協會編

えとぬりえ 定價40圓

送料6圓、40冊まで55圓

御道具箱 定價50圓

送料 5箱まで35圓

折紙 (文部省配給品)

寸色枚 定價 二圓二〇錢
5 7 10

送料 二〇組まで三五圓

折紙 定價 二〇圓

送料50組まで35圓

折紙 定價 三〇圓

送料50組まで35圓

床上積木

大	基尺 8 cm,	容積 32 cm^3	定價 1800 圓	〒 350 圓
中	基尺 6 cm,	容積 25 cm^3	定價 1500 圓	〒 250 圓
小	基尺 3 cm,	容積 12 cm^3	定價 450 圓	〒 35 圓

一箱の積木數約 90 箇，形は，基本的の形を網羅して居ります。

砂場用具

砂 型 (4 種入り 100 圓, 〒 35 圓)
 シヤベル (20圓 〒30ヶまで35圓)
 パケツ (60圓 〒8ヶまで35圓)
 ふるい (60圓 〒15ヶまで35圓)
 トンネル (70圓 〒3ヶ、35圓) 汽 車 (80圓〒10ヶまで35圓)
 自 動 車 (50圓 〒10ヶ、35圓) 客 車 (80圓〒8ヶまで35圓)

紙芝居

定價 250 圓，袋入り，〒 35 圓
 第1集 みみちやんとおおかみ
 第2集 どの子がいい子
 第3集 お母さんはどこえ
 第4集 親指姫

運動遊具

(圖・解説入りカタログ進呈)

ジャングルジム，滑り臺，ブランコ，揺きブランコ，波動回轉塔，共同ジャングル，大こ梯子，メリーゴーラウンド，廻てん椅子，等です。

發行所

千代田區神田
神保町 2 の 4

フレーベル館保育用品株式会社

振替口座
東京 38171

目 次

幼兒教育の反省(年頭語).....	倉 橋 惣 三.....	(2)
樂園の再建.....	坂 元 彦 太 郎.....	(4)
北國の冬の保育.....	根 岸 草 笛.....	(9)
童心の教育.....	守 安 了.....	(15)
保育要領に示された「劇あそび」の實際.....	山 村 き よ.....	(20)
フレイベル著「リナは如何にして讀み書きを學ぶか」(五).....	莊 司 雅 子.....	(23)
保育關係文獻解説.....	竹 田 俊 雄.....	(25)
子供讃歌(五).....	倉 橋 惣 三.....	(32)
記 録 (39)		
幼稚園教育課程幼兒指導要録協議會		
官廳公示連絡事項 (40)		
私立學校法公布さる		
教育用關係用品の物品税減免について		
會 考 へ.....		(46)



幼児教育の反省

— 年頭語 —

倉 橋 惣 三

幼児教育は何を反省すべきかを考える前に、なぜ常に厳しく反省しなければならぬかに就て考えなければならぬ。それはつまり、幼児教育の不十分を言いわけさせるような要素が眞の幼児をめぐつて幾つもあるからである。

その一は、幼児教育の効果が、客觀的に測定評價されにくいことである。教育の効果そのものが、一般的に必ずしも容易に客觀的にあらわし盡し難いが、幼年期たることにおいて特にそれが著しい。強いて、その直接効果を擧げ顯わそうとすると、保育の特質を誤ることもないししない。そこで、えてして、不徹底におわるを免れない。殊に、その施設教育効果の本質が家庭教育の本質と區分し難いことが多い爲に、その効果の不十分を互に譲りあつて、自らの責任領域の明かでないことが多い。

その二は、義務教育へのつながりが、何等規準的でないゆゑにその教育効果への要求が厳しくないことである。その規準が年長兒童の場合の如く制度的であり、殊に一齊的である

ことは、幼児教育の本質上強いて求むべきでないところもあるが、そのために、幼児教育の教育的期待効果が、時に餘りに無方針不確定であり易いことは免れない。

その三は、幼児教育の方法技術が遊戯的のものであるがゆゑに、教師も亦、過程を楽しむところが多くて、あなたがち効果の期待に綿密でない傾向があることである。幼児と共に楽しむことは幼児教育の肝要要件である。傍に立ちて教ゆるというよりは、生活のうちに共に溶け込むことなしには眞の効果を擧げ難いのであるが、その主觀性は屢々反省的たることに適するといえない。

その四は、以上の如き本質上のことでないが、幼児の保育が社會問題として、厚生問題としての重要性の下に置かるゝことのために、その効果が量的に考えられたり。幼児教育以外の點において考えられたりすることのために、純教育的効果の嚴密さをみつめていられなかつたり、時には、それを言ひのがれたりすることもある。これは、そうした幼児保育施

設についての論評ではなくして、幼児教育の反省の上に及ぼす影響としては、事實の上に考慮せられるべきことである。

以上、その一端を擧げたに過ぎないが、幼児教育に反省の缺け易いことの所以の分析として、必ずしも個々の幼児教育者その人の責めのみでないことを見たのである。

必ずしも幼児教育者の責めのみではないとしても、幼児教育が無反省であつていくことにはならない。これらの條件下にあることを知つて、特に心を教育的に嚴にし、純にして、自分の目々の幼児教育を反省しなくてはなるまい。

幼稚園が學校教育法の中に入れられたことは、幼稚園が就學前の教育としての要求に直面させられたことを意味するものである。その教育が同じく學校の名において、就學後の教育と混同せられてならないことが重要であると共に、義務教育たる小學校教育への正しい意味での連繼が充分考えられ實行せられなければならないことも當然の要件である。直接細部の連繼は暫く別としても、それが、國民の幼児期の教育施設としての教育効果を、充分に擧げる得るものでなければならぬ。

保育所は兒童福祉法の下にあつて、學校教育法の下にないというところから、幼稚園と一つでないと思はれているが、その一人々々の幼児に對する教育的反省は、幼稚園と別のものであつていゝ筈もないし、別のものでなければならぬことありよう筈もない。若し厚生の福祉のために、教育的反省

の違がないといわれることがあつたら、厚生の福祉としては兎に角、幼児の教育的福祉を完つするものとはいえない。

すなわち、幼児教育の反省の必要は、幼稚園においても保育所においても區別はない。教育的効果を省みない幼児施設は許さるべからざるものである。その名の如何を問わないのである。少くも本誌は、幼児教育の反省を以て、あらゆる幼児施設に参加しようとする。或る時はその伴侶となり、或る時はその批判者となるであらうが、いづれにせよ幼児教育の反省を推進することを念とする。

勿論、教育的反省の名において幼稚園教員が幼児と共に遊ぶことを忘れ、保育所保育が幼児の生活保護を怠る、ことを意味するものではない。保育はどこまでも實際である。その實際を離れて反省もない。實際によつて反省するのである。反省がすぐ實際となるのである。保育の實際は忙しい。しかも、反省を伴わない忙しさは、幼児教育に眞に忙しいことといえない。

我國の幼児保育の向上進展するとは、施設の數の増加することでもある。制度の整理せられることでもある。しかし、何より重要なことは、幼児教育の反省の進められ、高められ深められることである。斥くべきは無反省な麻痺的隨性保育や非良心的營業的保育である。



樂園の再建

岡山大學教育學部長

坂元彦太郎

「文教の府」とよばれている、役所のさわがしい机から、ふたたび教育の現場に立ちもどつた私は、いまの私の身のまわりを見まわしたり、將來の樂園の計畫をしたり、さらにここ數年の動きを靜かに思いかえして見る、——といつた何か知らぬ心のゆとりのようなものにとりもどしかけたようである。でも、まだ腰をいれて勉強したり、うちこんでものを書いたりするような氣もちにまでは自分をもつて行けないのである。それでも、私が四年前に當地にいたとき、震災で焼かれた附屬幼稚園を、この四月から復興しようとして、いろいろ畫策している。思えば、いまからまる三年前の「幼兒の教育」にのせた「樂園の復興」という拙文は、あの寒々とした役所の机で走り書したのであつたが、いま私は岡山の靜かな夜に、試験勉強をしていることもと向いあつて、この稿のペンをとりあげているのである。

三年前の私は、學校教育法に幼稚園をどう盛りこむかについて、苦勞というほどでもない、工夫をつずけていた頃だ。「樂園の再興」はその頃の私の氣もちを書きつけたものであつたが、たしかあの拙文の中でとりあげた "A good start for school" を私に下さつたヘファンサンさんはすでにカリフォルニアにあり、その編者の一人であつてその後偶然にも來朝されたストリツクランドさんもインディアナに歸られたが、ともに健在である旨を、先日歸朝した人から聞いたばかりである。

そして、これもまたあの拙文のおわりでとりあげた、岡山の師範の女子部の附屬幼稚園が焼失したそのあとを、再びこの地にくるこゝになつてほんとに偶然にも、私はこれを再興する奇縁にめぐまれたのである。私が四年ほど大阪や東京にさまよつていた間には、この幼稚園が再建されないで、偶然にも私がこゝの學部長師範校長として着任するまで、眠つたまままで私を待つててくれたような、ふしぎな氣持がしてなら

ないのである。私は、文部省にいたるときには、灰となつたあの桃源境のような幼稚園を復興するようなところで、學校としての幼稚園の位置を確立しよう、この樂園を日本中に復興しようとしたのであつたが、いま、野に下つて、今度は現實にこの幼稚園の再興の仕事を待つていようとは、何人が豫期することができたであろう。灰になつたあの幼稚園が、私を招きよせたのだ、といえばあまりにアミステイクではあるうが、人々が私のこうした心の動きを知らないのをいことにし、私は平凡な學部長面をして、幼稚園に格好な室をあちこちと物色し、適當な先生をさがしているのである。

何人かの方は、私ができるだけセンチメンタルにおちいらないように努めている、この文章のうち、私のふかい心の動きをするべく読んでいただけであらうと、私は信じている。私がとりあえずつくる幼稚園は、昔のそれに比べたら、雲泥の相違があるといつてもいい位な見すばらしい建物をつかう外はない。しかし、私は私の「職權」をひそかに濫用してできるだけの設備をしてやろう、と思う。戦災復舊という名目で國がくれる費用の多くの部分を、この美しい復舊に投じこまうと思う。こんなに楽しい企畫を、幼少のときにこの地にくらされた倉橋禪師（一）をはじめ、私のことを氣にかけ下さつている人々にこつそり知らさないでいていいものだらうか。感傷家の、美文まがいで書くなぐるくせの私が、何でもないような顔をして書きつけている氣持ちに、せめて微笑でもおこつてもらおうではないか——

二

私が都落ちをして、東京での仕事を中途でやめた多くの心残りのうちで、一番大きいものの一は、「幼年教育研究會」と別れたことであつた。先にあげた、ストリツクランドさんが、日本に三月の契約で來朝されたのは昭和廿三年の春であつた。インディアナ州で出した「A good start for school」という冊子をすでに読んでいた私は、同嬢がその編者の一人であることを知つていたので心から迎えたのであつたが、その冊子が、幼稚園から小學校三年までのいわゆるブライマリー・グレードのための教育のことを楽しく述べたものであることを思つて、そうした方面の教育の指導をして下さるようにストリツクランドさんにおねがひした。快よく承知された同嬢を中心に、幼稚園と小學校とを同一施設内に持つ、二つずつの國立、公立、私立の學校の、「幼稚園と一年の担任の先生が集まつて」「幼稚園と小學校との連絡」といつた無粋な題目で、指導を受けたのであつた。私は役人としていそがしかつたため、文部省からは三木安正さんに出てもらつていた。

數回の會合後、ストリツクランドさんは歸國された。あと、はしばらく會合もとだえたが、そのうちの重要な方々が熱心にその繼續を申出られた。實は、私自身がそのことを一生懸命にやりたいと思つていた矢先なので、前の會に出た方を中心にして、さらにひろく會員をつつて「幼年教育研究會」をつくつて、昭和廿四年の二月を中心に數回の研究會や懇談

會を開いたのであつた。

いうのも恥かしいことであるが、役所の仕事が多量にそがしかろうと、このことだけは私の道樂として力を入れて行こうと、心に思つていたのであるが、ついに、都落ちをすることになつて、心ならずもその頃の同志を棄てる破目になつたのである。

私には、昔からの夢があつた。五歳位から八歳位のことどもたちに、ほんとに教育的にのぞましい環境のもとで、一貫した楽しい生活をおくらせるような、施設をつくることはできないものであろうか、——という、私の漠然たるあこがれなのであるが、それが、"A good start for school?" に美しくも浮きぼりにされているのを讀んで、うらやましい限りであつたのだ。日本にも、現實にそうした動きをおこそうと、ささやかな、そして全く民間的な運動をおこしたのであつたが、それが空しくついでたわけなのである。

所が、先日その會合が復活して、この間も京橋の常盤校で研究會をやられた、ということを三木氏にきいて、ほんとにうれしくなつた。是非、みんなで繼續して盛りたててやつていただきたいと心から祈るのである。

——私も、こんどの幼稚園はできるだけ、小學校のすぐ近くに建てようと思う。しかし私にも早や直接にいろいろなことを計畫したり實施する位置にはないのをかなしく思う。

三

幼児教育關係の方の中には、私が五六年前岡山にいたときには、附屬小學校幼稚園の主事であつたように、思つてられる方があるようである。倉橋老禪師も、どうもそうらしいしかし、私はその頃師範の女子部長であつて、普通の仕來りではびようたる幼稚園には、入園式「卒園式」以外には用はなかつたわけである。

變な自慢であるが、私は日本のあらゆる種類の學校の長や先生をした經驗をもつてゐる。小學校中學校はいうに及ばず盲啞學校や専門學校や大學にまで、一應關係しなかつたものはない。ただ、今までになつたことのないものは、幼稚園長と大學長と、それに新制中學校長だけである。私は、實は、幼稚園長をした經驗をもたないことを、ほんとに残念に思つてゐるのである。小學校に二つ關係したが、そのいずれにも幼稚園が附設してなかつた。

所で、あの第二次世界戦争がはじまつてから私は岡山に行つたのであつたが、も早や、その頃は、私が一生の仕事と感じていた初等教育の新しい研究を、ほとんど小學校にもちこむことは出来なくなつていた。それで、戦争が盛である際唯一の新教育實施のかけ場所として、幼稚園と國民學校低學年との連絡をなめらかにすることを研究する、ということに見出したのであつた。その兩方の主事や先生と話しあつて時には先生を交換したりなどして、少しは研究をすすめたのであつたが、ついに戦災にあつてすべてが灰になつてしまつたのであつた。

でも、戦災の前日まで開園し、警報が出ると、登園していた園児たちには、師範の専攻科の生徒を一人に一人づつつけて退避させていたことなど、思出すと、無茶をしたものだと思つたり、あれでよかつたのだ、とあつても胸にこみあげてきたりするのである。焼けた直後の、いろいろなものすがたは、とりあげるに忍びない。

私は、ここで焼けて天にのぼつたものを、これから、ふたたび地上によびもどそうと一つの種子をまこうとしている。私自身はそれに没頭することは職務上できないかも知れないが、道楽としてこの夢を抱きつづけることは許されてもいいと思う。そしてせめて、私の夢を私のまわりの人誰かに、植えつけたい。私の教え子の中から、一人でもこうした方面へ献身するものがでることを心から願つている。

四

教え子といえば、教育學部入學の希望者が少ない、ことに女子が少ないことを口實にして、私は、縣下の重だつた女子の高等學校を遊説して歩いた。そして、私は學部には、二年課程があつて相當の收容力があること、ことに女子の入學、ことに幼稚園や小學校の先生になるために女子の方がふつて入學されるように、説いてまわつた。そのせいか、今度は相當の志願者がふえたらしい。

また、教育學部の講座も、小學校課程は二ヶ年のコースの場合でも、幼稚園の先生の免許状がもらえるように、講義を

しくんだ。何十人かの女生徒が、幼稚園の免許状がもらえるような、單位を履修している。その生徒たちのために「幼児心理」「幼児教育」といつた講義を聞くことになつており、私は身のほど知らずと笑われるかも知れないが「幼児教育」の講義を自分で受持とうとひそかに定めている。あの多くの人々と一緒に苦勞してつくつた「保育要領」などをテキストにして、曲りなりに私がやろうと思つている。學部長が、こうした題目をとりあげるとは、田舎大學であるとしても少々珍風景かも知れない。

私の學部に、はつきり幼稚園教員養成の二年課程を設立して、その看板の下に學生を募集することは、まだまだ内外の情勢から見ても時機ではない。いろいろな理由をここではあげないが、このことは全國すべての大學にほとんど共通のことだと思ふ。しかし、小學校課程の講義題目のうちに必ず幼児教育の講義を何ほどかを加えて、希望者にはその方面の勉強ができ、教師の免許状がもらえるように仕組むことは、絶対に必要だと思ふ。各地の幼児教育関係者が、その土地の教員養成の大學たり學部なりに、つよく要望して、これだけでも、實現させるようにしていただきたいものだと思ふ。

私は、私どもの學部を卒業もしくは修了した直後に、幼稚園に就職しようというものがあつたら、決してそれを拒まないのであろう。内々ではあるが、文部省の教職員養成課長にこのことを話しても、私の態度がまちがつているとはいわなかつた、というところも書き添えておくことにしよう。

こうしているうちに、いつかは「神機」をつかんで、はつきりとした「幼稚園教員養成課程」の看板をかかげるときがくるであろうことを、切に期待し、その機会をねらっている幼稚園教諭の養成を本道にのせるといふ、おそらくこの教育における最大の懸案を何んとかして、解決のいとくちを見つけてるようにしたい。

五

昭和廿四年七月の、全国保育連合會の新潟における第二回大會での決議として、私が文部省にいた間の仕事について私への感謝のことがおくられたことは、ほんとに意外なおくりものであつた。私には全くあたらぬ讃辭であり、はつきりなつて穴にでも入りたい氣持ちであつたが、それと同時に、幼児保育關係者の厚情が身にしみてうれしかつた。不才不敏で十分なことができなかったことを、ななにあげておいて何んだか自分の苦勞が認められたような、われながら身勝手な満足感にひたつたりした私であつた。しかしながら、それと同時に、全國連合の副會長になれといわれたのには、面食つてしまつた。しかし、皆さんの厚情に感激のあまり、ついさう、かうか引受けてしまつたが、それ以來、副會長としての仕事などほとんど怠つていて、まことに相すまないことばかりである。でも、倉橋會長の御病氣もなおり、事務局のりつばな方々がそろつておられるので、自分で自分をなぐさめてはいるが、こういうことが長く続くことは、あんまりいいこと

ではないと思ひ、できるだけ早い機會に何とかしていただきたいと思つてゐる。

こうした、全く個人的なことから書きならべて得々としているうぬぬは相當なものだと、われながらおかしなつてくるのであるが、最後になつたが、私が幼児教育について感謝状などもらうようにして下さつた人々、次にしては終戦後の幼児教育の方向付けに、ひそかに貢獻された方の名を三人だけあげて、駄文を結ぶことにしたい。

先ず、あげねばならないのは、ヘレン・ヘアナン先生である。ほ　とうに日本のこどもと先生を愛された先生は、戦後の幼児教育にとつてはこの上もない激勵者であり、指導者であつた。「保育要領」の編さんについても、學校教育法の幼稚園の章についても、先生の教えに負う所大なるものがあつた。功績が大であつたばかりでなく、日本人を愛して下さつたことが、人々の胸をうつたのであつた。

前述のストリツクランド女史も滞在が短かかつただけに、狭い範圍ではあるが、幼年の児童の教育については、新らしい方向の種子をまいて去られた。このお二人とならべるのは如何と思ふが、私は、私と一緒に働いた、中谷千藏君（現在は信州大學庶務課長）のかげの努力のことについて一言する機會を是非もちたいと思つてゐた。私の不十分な所を十分に補つてくれたあの縦横の活躍がなかつたら、決して今日私が感謝状などもらうことはできなかったのであり、同君へ心からなる感謝で、この文を結びたい。



北國の冬の保育

高田高田
保育園長

根 岸 草 笛

「これがまあついの住家か雪五尺」という一茶の句がござい
ますが、雪國では十一月には入りますと早々に、遠山が雪を
被つぎ、田の面には薄氷が張り、ときどき霰が音を立て、雲
行があわたしくなります。

そして、十一月なかばに初雪が降り、十二月はじめには、
山も村も街も雪に埋れて、その雪がそのまゝ根雪になります
と、所に依つては二丈と三丈と積つた雪が三月末頃まで溶け
ぬ事があります。

その上、うす墨色の雲が低くおしかぶさつて、明けても暮
れても雪が音もなく降り積り、風は身を切る様に冷たく、人
々は雪おろしのために、新春からお雑煮もそこ〜くに、吹き
曝しの屋根に登る事が珍らしくありません。それで、吹雪の
朝など、頬つべたや手足を眞赤にして、白い息を吐き乍ら雀
の様に背を丸めて、馳け込んで来る幼い者達の姿をこよなく
いだらしいものに想えるのでございますが、来る日も〜も
お外が荒れます關係から、雪國では當然屋内の保育が多くな
り、太陽の恵に缺けますので、悲しくも例年クル病や小兒結

核の子供達が少なからず発見されるのでございます。

そこで、冬の保育の問題の焦點は、如何にして、その光線
不足運動不足の環境を整備して、冷たい風雪から、幼い者達
の心身の健康を護るかという點にあるのでございますが、そ
のために既に晩秋の頃から、こま〜とした数々の心遣いが
惜しみなく捧げられるのでございます。

第一に、明るく暖い園にするために、高い所に窓を明け、
ガラスや煤を清拭し、汚れた箇所は白い紙を貼り、戸障子に
は隙き間風を防ぐための目張をし、園の外側えは葎や萱や竹
の類を用いて頑丈を雪圍いを致します。

又、ストーブの薪やぼえ(粗朶)を澤山買い入れ、炬やお
炬燵やお火鉢の灰も、藁を燃やして新しくとり替えます。

更に屋内を少しでも廣くするために、不用の器具を片づけ
お部屋をしきりをはづしたり致します反面に、力がありあま
つて亂暴をしたくなる様な子供達の虫封じに、繩梯子や登り
綱をさげ、土嚢や砂嚢の様にもち運びの出来る重い〜もの
を用意し屋内砂場もつくります。

それから、冬の間は自然が白一色に塗りつぶされて、金魚まで瓶の中で冬眠して仕舞いますので、觀察の領域が非常に狭くなりますから、お部屋の中え小さな花壇をつくつて、比較的寒さに強い南天、やぶこそうじ、まんりやうの様な赤い實や福壽草、茶種などを植えます。

その外にアマリ、スヤヒヤシンスの水栽培をしたり、梅の枝をストーブの側においてその早咲きを愉しんだり致しますがこうしたお事は畠のお大根やお芋や人蔘の收穫とおなじに「冬ごもりのお仕度をしませう」という嬉しい保育の主題として相當期間子供達の興味を纏ぎとめる事が出来るのでございます。それから、霰や雪溶けの水で濡れて来る子供達のために乾燥室の用意をし、又寒くなりますと頻繁になりがちなおしつこが、年少組の子供でも樂に出来ます様に、モンペやズボンはなるべくゴムテープやボタンにする様にお母さん達を指導します。

防寒具は大體普通のオーバーやマントに頭布を被つて來ますが、農家の子供達はゴザボウシと申しまして、すげやいぐさで編んだものを被つて參ります。このゴザボウシは雪もあまりつかず、殊に雨ガツパの様に兩耳がピツタリふさがれませんので交通事故が防がれますので、農村ではもつと推奨されてよいと思つております。

穿きものは少々冷たくともゴム長靴が一番便利なのですが手には入らぬ子供は雪下駄や藁靴を穿いて來ます。藁靴というのは藁で編んだ靴で型も長短つゝかけ幾種類もあります。

非常に暖いものですし、多くはその家庭の人の手づくりです。ので永持ちはしません。が、その子の足にピツタリあつた靴に子供らしい赤い花模様や茶じまの切れ地でそのふちを飾つたりしたものははいているのを見ますと、如何にもつくつた人達の素朴な愛情が溢れていて心の暖るやうな思いが致します。

次に暖いという事に關連して、子供達を身體を中から暖めてやれる給食でございますが、野菜の中でも比較的ビタミンAが不足しますので、色つき野菜の貯藏に苦心致します。又暖ると申しますとカロリーの多い濡いためやお汁が多くなりますが、スチウ、さつま汁、けんちん汁と申します典型的なお献立の外に、鯉こく、すけとう鱈の粕汁、わかさぎのつくね汁というやうなお國自慢から、さては支那風のチンタンワソツやチャブスイに至るまで、色々と工夫して子供達を暖けてやりますが、その外に名の付け様もなき儘に我が同志の間で國際料理と呼ぶ諸菜養素の完備した暖い迷料理の幾種類かがある事もついでに御紹介申し上げておきましょう。

それから、遊びの主題にも必然的に、雪にちなんだものが多く表れて參ります。

しみ渡り、スキー大會、雪のカーニバル、お日待ちエトセトラ……で一寸暖い國の方々には想像もおつきにならぬものがあります。

しみ渡りというのは、夜分特に寒さの厳しかった朝、路も野原も沼もいつせいに凍つて仕舞いますと、不通過れない所が何處々でも自由自在に通れるやうになりますので、好き勝

手な所えビクニツクに行くのでございます。

雪のカーニバルというのは、大體むかしの紀元節の頃に街の人達が雪のアーチや、建物や、船、それから有名人の像や藝術家の當り藝などをつくつてコンクールをする街のお祭りです。そんな時には子供も子供なりに情熱を傾けて、そのお祭りに参加するのでございますが、そのスケールの偉大さはどうてい粘上細工やお砂場遊びの比ではございませぬ。しかし、こうした主題はお天氣が悪いと中止しなくてはいけませんので、總體的には紙芝居や人形劇やごつこ遊びが盛んになります。又靜かに愉しむという點から、金澤の松田先生の所では白晝でもよく見える幻燈を工夫され、スリガラスにパラインで子供達に繪を描せそれをその儘見せて欣ばせていらつしやいます。ガラス繪は平においたガラスに水筆で繪を描いておきますと翌朝綺麗にそだけが凍つて白く結晶になつておりますので、子供達が大変好みます。水繪書きとまで行かなくとも只息をハアと吹きかけて曇つた所を指先でいたすら描きするだけでも、子供は大變々々欣びます事を皆様も御存じでしょう。

それから、製作なども三學期の子供達は發達的にもそうなるのだと思いますが、お外え氣が散らない故でしようか、製作にも打ち込んで参りますので、出来るだけ紙製作その他の材料を豊富に備えます。それに夏の間に貯えておきました、銀杏やどんぐりのおはじき、獨樂、ヤジロ兵衛、ぢしやの寶のお手玉と申します類の自然物利用のお玩具つくりをもしば

くくりかえし、好きな時に何時でも誰でも何でもつくれる様に氣を配つておきます。

しかし、子供達は私達大人が考えますほどに寒さに對して、いぢけてばかりおりません。お天氣さえ良ければ、或いは少々粉雪ぐらい散らついても、仔犬の様にお外え飛び出して、箱櫓を引いたり、スキーに乗つたり、雪投げをしたり、あきる事を知りませぬ。

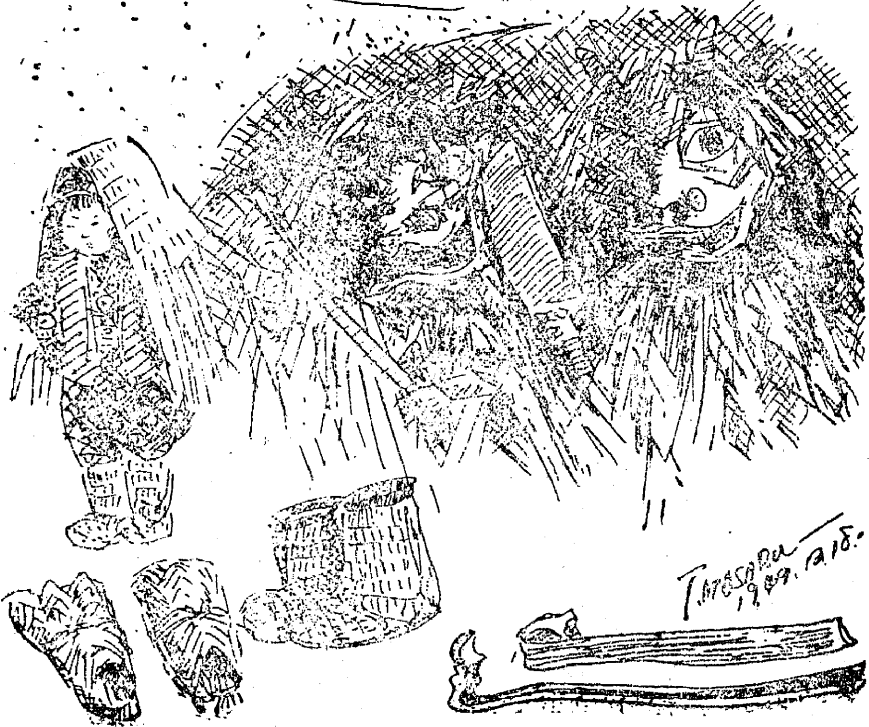
殊に戸外における自由遊びの時間には、私達が遠い先祖から受けついで、私達もやはり幼い頃に姉や兄達と一緒にしてきた地方色豊かな郷土的な懐しいお遊びが澤山出て参りますのでそれを少し申し上げて見ませう。

迷い藏

新しい雪が積つて暗れた朝などに好んでするお遊びですが糞靴で雪を踏んで、八幡しらすの様に幾條もく交錯した細い迷路をつけます。それから普通のカケツコの様に一ヶ所から一齊に飛び出して近道を選び、一番先きに目的地に着いたものが勝ちになるのですが、新雪は踏む度に丁度買ひ立ての皮靴の様に、キユウ〜という輕快な音がするものですから幼い者達は雪を踏む輕い抵抗とその音に惹かれて、その事だけでも十分に愉しくて、何時までもやめられないで路つづけています。

うちごちや（お家ごつこ）

これも迷藏の様に雪の軟かい時にしたがるお遊びですが、迷藏と異なる所は、メチャ〜な路ではなくて、跡がキチリと壁



TATSOBU
1909. 12. 18.

やお廊下として表われる様にして、實物大のお家を踏みつけて行くのです。お玄關が一坪なら一坪、お座敷が八疊なら八疊坪という風に自分の理想の住宅を雪の上に設計して踏みつけ、床の間には椿や杉枝を持つて来て飾り、臺所えは籠を据え厩には親仔の馬を二匹おいたりするのですが、立體的に表現出来ないところから、その所だけを平気で平面的に表現してありますので、吹き出したくなる時があります。それが出来上りますと筵やさんばいす等を持ち出してお飯事が始まりますが、お飯事より家づくりの興味の方が先行的で且つ重んじられています。

お日待（カマクラ）

やはりお飯事を主にしたお遊びですが、これは小正月を中心にして雪室の中で行うお飯事です。最も盛んなのは秋田縣の横手町附近のカマクラですが、お正月の十二三日頃から井戸の傍や路傍の雪をシヤベルや、コスキ（木で出来た雪掻き用のシヤベル）で、高さ六七尺、巾一間ぐらいの籠型の雪室をつくり、正面に方型の祭壇を設けます。

そしていよいよ十五日の夜になると子供達はその中に筵を敷いて座り、祭壇に水神様を祭り、ロソクを灯してお供物を供え、餅を焼き、甘酒を掬み、禮拜者の来るのを待ち「水神様に寄進してタンセ（下さい）」と通行人に呼びかけるのですが、越後のお日待ではあまり祭壇をつくりませんし、小正月とは限らず少しも風が良いと幾度でも雪室をつくりなおして、その中でお飯事をくりかえしております。

しかし暖い日には雪が溶けて座つていと筵が下から濡れて來ますので、母親から命令された大切なお子守り中の赤やんを洗濯盆の中などえ寢せておつているのはほんましくなる風景です。それで園の子供達もやはりこのお日待遊びが大好きですが、大きい子供達の様に、又カマクラの様に本式のお鍋や七輪を持ち込んでの煮炊きは致しません。お盆の上に、梅酢やうこんこ（榛の木の實）で赤や黄色に染めた、雪や氷柱のお菓子やゼリーを並べ餘念もなく遊び暮しております。

又、雪を色々な色に染めて遊ぶ染物屋さんには、それだけ切り離しても十分に子供達の心を奪う力があります。

ドンドヤキ（さいの神）

小正月の十五日の行事にもう一つ子供の大變欣ぶものがあります。子供達が不用になつた門松、しめ縄、おかさりなどと一緒に自分の書き初めを集めて焼くのですが、只それだけでなしに、藁を澤山寄せ集め勇しい音をさせるために青竹を交ぜ、田畝の真中に四本の柱を立て、そこで火をつけますが藁がどん／＼燃えて眞赤になり、青竹がパン／＼とはねて何とも云えない気分になります。

その時に、書き初めの火の子が高く天を登るほど、その子のお習字の手が擧る（上手になる）と信じられております。又、その火で焼いたお餅は無病息災のおまじないになるというので、おかさみや切り餅を焼いております。

もつともこうした事は農村の方に盛んで、都市では現在ほ

とんどすたれておりますので、直接この遊びを園ではいたしません、それを他所で見て来た翌日は、ごっこ遊びやお繪描きやお話にも随所にその印象が表われ、しばらく昂奮が尾を引いて残ります。

哭く子はいないか(年貢の兎、ナマ、ハゲ)

東北の地方にある習慣の一つに舊暦正月十五日の夜、青鬼赤鬼の面を被つた若者が二人、藁またはウミスゲ(海藻の一種)で作つた蓑と腰簾様のケンダイを着て、藁のハッキとクツを履き、銀紙を貼つた山刀あるいは鉞や大庖丁を持つて、家々に表われ、哭く子、あくたれ子、怠けがちの娯筆をさがして體罰を加える風習がありますが、越後の地方では、九つになつた悪い子に、年貢の兎という兎が表われ、大きい袋の中に入れて哭く子を遠くの山を連れて行くといふ言い傳えが幼い者達に信じられています。

この二が交錯した様なものが、「哭く子はいないか」と呼ぶお遊びになつていきます。別に大した仕度はありませんが、一寸そこらにある風呂敷やお面を被つた鬼又は兎に見付からぬ様に(隠れん坊と同じ型で)園の隅々にかくれ、息をこらして面白がつています。これも不思議に夏の戸外ではせず、小正月のその頃になつてからはじまります。

カチコ

その外に普通に子供達がしておりますお遊びにカチコというのがあります。

最初に一握りの雪を手でしつかり握りしめて球の中核にし

それを柱におしつけたり、下駄で踏みつけたりして、囲め乍ら段々大きくして丁度砲丸投げぐらいの雪の球をつくります。そして一人の子供の雪の球を地面におき、別の一人の子供がそれに自分の雪の球を投げつけて、壊れた方が負けになるので、その音からカチコという名が生れたらしうございませす。單純な遊びですがながく興味が続いたします。

スキー、スケート、とその代用品

スケートの代用品として竹下駄をつくつて穿いています。猛宗竹を真二つにバンと割り、それを自分の足のサイズに合わせて切り、角を丸める、焼火箸をブスリとさすと黒い煙が出てすぐに穴があきます。それに藁や竹の皮の緒をすけて穿くのですが、寒さに路が氷つて居りますと、スワイ〜と氣持のよい音を立て、速く〜走ります。

東北地方のタケツコというのは、やはり竹を二つに割つたもの、先きを(スキーの實物大に)火で焙つて曲げてあります。

その外に下駄に細い鐵を一枚又は二枚打ちつけた下駄ッパというのがあります。

こんな事を申し上げていれば數限りなくございませす、最後にこんな戸外の遊びにも倦いて一步園内には入れば、風雪は如何に厳しくとも、ストーブの火がトロ〜と燃え、お給食が湯氣を立て、待つて居りますので、冬の保育も又愉しからずやと申し上げておきます。

童心の教育

守安了

一童心

五歳の長女と四歳の次女とが、二階の間で大笑いしながら遊んでいる。其の様子が、いつもとは非常に違つて、何だかひどく愉快ならしい。そつと二階の上り口から二人の様子を見た。

幼稚園から粘土をもらつて來たらしく、其の粘土を兩手でもんでゐる。すると長い棒になつてたれ下る、それがもう二人にはおかしくてならぬらしい。そして棒になつた粘土で卓の角をたたたく。すると粘土の棒が一ぺんにぐにやつと曲がる。之がおかしい頂點で、轉げ廻つて笑つてゐる。卓も煙も泥だらけにしているし、手も衣類も、顔や頭にまで泥をくつつけて笑ひ騒いでゐる。

年寄りが見たらそれこそ大目玉の場面である。しかし二人の子供としては一大發見をして且つそれが満足の頂點に在る。雑念は微塵もない。全精神を集中して、私がすき見をしてゐることすら氣付かない。大人の目で見れば、他愛もない此の一事が、彼等の全精神を奪ひ切つてゐるのである。之が童心の世界であつて、大人の世界とは全然別個のものである。

童心とは、さざれ石が鏡となり、そして若がむすことを、一點の疑念もさしはさむことなく無條件に肯定する心であり、十字架上の聖者が復活することに、何の疑念もなく信じ切る心である。況や不治の病も立ち所に全治し、不起の足なえも起ち、盲目が明き、癩の唾で打身の瘡が引込めば、御飯粒をこぼせば

目がつぶれる心である。

一切の萬物に聲ありとする心、即ち石木虫魚に至る迄、一切の事物に自己と同じ人格を認める心であるから、一切平等、自他同格、相對を超越し絕對に生きる心である。故に愛憎別なく、喜悲一如、利害に捉われず自由不羈である。

一本の竹切れも、之を打ち振れば、三軍に將ともなれば、水火風雷を起す魔法の杖ともなり、又之に打ちまたがれは一瞬にして千里を馳せる名馬ともなる。お月様とかくれんぼも出來れば、浦島となつて乙姫様とも遊び、お椀の舟で京まで上ることも出来る。お釋迦様さえも無縁の衆生という言葉を聞いたられたが童心の世界には無縁の言葉は不要である。

此の童心が健やかに庇護啓培せられて生長發展するときに、大科學者ともなれば大醫術家ともなり、大政治家ともなれば高德の宗教家ともなる。私達は此の尊嚴なる童心を更に擲下げて見よう。

二童心の特性

童心の世界を大人の世界 歌を忘れたカナリヤとなつてゐる大人 から顧る場合、顯著な特性が認められる。

(1) 清淨無垢

喜悲一如、愛憎無差別、自他同格の童心の世界は大宗教家の心境よりも清淨であり、一切の邪念なく我欲なく無垢であつて、現し世の神である。

私は五月晴れの日、二階で讀書していたもうお聲時かと思われる頃、近所の幼稚園通いの三人連の女の子が、私の家の門の前を歸つていく。三人手をつないで道の片側によつて壊れかかつたお隣の板塀の際に並んで上方を眺めている。

「鯉轍がゆれているね」

「あの黒い大きいのがお父さんよ」

「あの鯉轍には子供たちがいないのね」

「アツ、屋根よりも高く泳ぐよ」

「勇ましいこと。アツ小山さんことの屋根の上から尻尾が見えたよ」

「皆んなで鯉轍の歌を歌おうね。三、四」

「屋根より高い鯉轍」

大きな眞鯉はお父様

小さい緋鯉は子供達

面白そうにおよいでる」

「もう一べん歌おうよ。三、四」

「屋根より高い鯉轍」

この三人の幼い清淨の世界に打たれて、歸つて行く三人を私はいつまでも見送つた。

(2) 純一無雜

童心には混亂がない。白は白、黒は黒、直は直、曲は曲、照魔鏡の如く、恩に傾き響に離れ、利欲に惑わされるが如きことは絶対にない。夫に死別れ、八つと六つと二つの三人の子供を抱え、途方に暮れた貧しき母の選ぶ道は死より他になかつた。

晩秋の田舎は秋の取入れに忙しかつた。昏時に二人の子供の手を取り二歳の子を背負うて、山の方へ上つて行く母子四人の姿を見た村人は、一人二人ではなかつた。斯くして村人達が不審を抱いて、後を追ふて山道を上つて行つたが、谷間の用水池に展開されていた悲劇は斯うであつた。

母子心中を決意した貧しき母は、八歳になる長女に因果を含めて、池の堤から母自らの手で池中に突き落した。長女はブク／＼と泡を浮かせて、終に沈んでしまつた。

次に六歳になる長男を池に突き落そうとした。先に姉の死を目前に眺め、今自分を同じ運命に葬らんとしている母に對して、彼は母の手から逃れようとしなかつた。のみならず

母の膝にシガミ着いて、

「お母ちゃん、池に落さないで頂戴よ。お母ちゃんのことなら何でもきつとききますから、池に落すことだけは許してね」

と泣いた。併し母はその手を振り切つて彼を池の中に突き落した。彼は苦しみもがきながら一度水中に沈んだが、暫くしてポツカリと頭だけが水上に浮び出た。苦しみもがく中に顔が水上に出た瞬間、一と息吸うや否や、
「お母ちゃん！」

一聲母を呼んで、姿は再度水中に没してしまつた。

姉を殺し今自分を死の恐怖と苦悶にたたき込んで其の相手に對して、尙且つ

「お母ちゃん」

で一貫しているとは

世に子を捨てた親はある。童心は絶対に母を離れない。絶対に變らない。

(3) 全一集中

童心は常に全一集中所謂「只一筋」である。

お父様が亡くなられ、今日は其のお葬儀である。六歳になつた遺児、麻袴で父の位牌を持つて正席に着いたあどけない姿は、見る者

をして思わず眼頭を熱からしめた。

彼は今迄に見たこともない壯嚴な儀式が、何も彼も奇異であつた。其の中に正面の嚴しい僧の次の席にある僧の、前に置かれた打鐘か、彼の全精神を吸着けてしまつた。どんな音が出るだろう、一つやつて見たい、と考へたもののかめししい儀式の中だ、はやる心をジツと押し靜めてはいるものの、彼の念慮の中には他の何物もなかつた。

待つこと久しうして、觀經しつづ僧は除るに打棒を手にした。そして一撃、ガーン。

「やつた」

彼は絶叫した。參列の面々、悲喜同時に至つた。之が童心の特性。

(4) 樂天酒脫

童心は施して満足し求める所の欲心がない従つて苦惱も煩悶もない。常に樂天酒脫、八風吹けども不動天邊の月というべく、天空浮雲を凝げず只去來に任せるが如く、喜び到れは喜び、悲しみ到れば悲しみ、去れば忽ち平靜、凝滞執着がない。

「お母ちゃん、アーンアーン、來て頂戴アーン」

「どうしたの、大きな聲で泣いて」

出て見ると三輪車が、石につまづいて轉んだといつて泣いている。

「もう泣かないのよ。別に怪我をしたのではないのだから」

「お母ちゃん、あれ猫が。猫が松の木からブラ下つてよ」

「アレ／＼。猫が木から下りられないで困っているのよ」

「アハハハハ——お母ちゃん、猫のブランコよ。おかしいね。ハハハハ……」

五歳になつた雄介ちゃんには、三輪車がまだ上手に乗りこなせない。三輪車で泣いた眼にはまだ一パイ涙がたまつているのに、猫のブランコで、もう何々大笑。大人には出來ない藝當である。

(5) 明朗快活

童心は常にお天氣がよい。だから病氣の時には笑顔が病狀を判断するバロメーターとなる。若し常に無鬱な子供だつたら必ず心身何れにか異變を有している。

(6) リズム變化

リズムは童心として牛得的のものであろう物心ついた童心の活動は其の特色として何等

かの形に於てリズムを伴つてゐる。

子供が其の環境から比較的障害されることなく、所謂「うつつをぬかし」ている場合には特に顯著に現われる。お伽噺にリズムを必要とするのも理由がある。

三歳になつた次女が、窓の下で砂遊びに熱中している。そして何だか一人で喋つている

「まるい花

風に吹かれて

みないくよ

お姫様

家來とも

風に吹かれて」

(生後滿二年三月月育兒日誌の中より)

歌つてゐる。此の次女を翌年夏海水浴につれて行つた。民家を一軒借りたのだが、お粗末千萬の家で、半は破れかけた家。便所の壁が壊れているので、用を達しながら裏の畑が眺められる。次女が用便に行つたが、中々出て來ないので、そつと行つて見ると一人で何か喋つてゐる。シト／＼と雨の降つてゐる日で、大人も徒然に堪えられない位だつた。

「雨が降つて

雨が降つて

南瓜が成つて」

(生後三年九ヶ月育児日誌の中より)
童心の世界では話も歌も一つである。

(7) 好 奇 想 像

童心の世界には不可思議はない。而して童心の世界は一切が神秘奇異である。それだけに童心に映ずる一切が不可思議であり、其の不可思議を希求しているのが童心である。と共に童心の世界は總ての判断に進取的であり未來への憧憬が掛けられているから、現前の解離だけでは満足できない。必ず未來へ想像し未來への期待を熱烈に要求する。此の好奇心、想像力を適正に助長啓培する所に童心が成長發展する。

桃の中から赤ちやんが産れ、犬猿雛子をお伴につれて、あの子供の桃太郎が大鬼を降参させるあたり、指に足りない一寸法師が、お椀の舟に箸の櫂で上京、清水坂で大鬼を追つ拂ふあたり實に童心を満足させるに足りる。一お母ちやん、あつちの梅の漬物の方が之よりも袂が長いのね。

それでも袂だけ同じよ」
さてもく不思議という顔付で。

(生後四年四ヶ月育児日誌の中より)
ワタクシノオモツタコト

ワタクシ ハ
オカアサン、マツノ キ デモ オハナシ
ヲ スルノデセウカト キキマシタ。
オカアサン ハ サウサウト オツシヤ
イ マシタ。

サクラ ノ ハナ ガ エレルノハ イヤ
イヤヲ シテキルノデセウト イイマ
シタ。オカアサン ハ サウサウト オ
ツシヤイマシタ。
サクラ ノ ハナビラ ガ オチテ クル
ノハ ナミダ デセウト タツネマシタ
オカアサン ハ サウサウト オツシヤ
イマシタ(等一、八月十九日)

(8) 主 我 的 だ が 同 情 的

私のお母さんよ。私のおもちやよ。私の先生よ。私のお友達よ。

童心の周囲の一切はみんな「私の」であるだから見方によれば凡てが主我的である。がしかし、童心は自他一如、自他同格なのであるから、主我的にも見得るが又凡て主他的とも謂える。

長女次女丁度年違ひなので、長女は二年保育次女は三年保育として同時に入園した。その第二年度の四月だった。

幼稚園ではお雛祭を中心に保育されていた落摘みに行つて最後の仕上げは草餅を作ることにまつた。

今日は其の仕上げの日でした。お藍にお餅を戴くというので子供達は数日前から大喜びしていた。丁度此の前日から次女は風邪に冒されて缺席、其の午後姉が歸つて来て「純ちやん、お餅よ。先生が純ちやんに持つて歸つてお上げなさいつて、下さつたの上」

「フーン。ありがと」
お母ちやんも

「まあ、先生がそんなにおつしやつて下さつたの、ほんとにもつたいたいことね」
純子は遂のお餅をムシヤく〜と食べてしまつた。併し此のお餅について、後日先生から伺つた話は斯うだった。

仕上げの日園児はみんな疊のお部屋に集まつて、先生が配つて下さるお餅をおとなしく待つた。そして一同おひな様にお禮をしてにぎやかに、はしやぎながら食べた。所が宅の浩子(長女)はお餅を食べようとせず一人キョトンとしていた。先生は「浩ちやんはどうして食べないの」とお尋ねになつた。

「純ちやんが風引いて休んでいるから持つて歸つてやるの」

との返事。それで先生は涙が浮んで来たそ

うで、

「純ちやんの方は別にありますから、歸る時持つて歸つてお上げなさい。これは浩ちやんの方ですから、此所でお上りなさい」それで浩ちも喜んで戴いたそうだ。歸る時先生が純ちの分を持たせて下さつたのだつた。

そんな出来事のおつたことを浩ちもいはなければ、純ちも一向に平氣で食べてしまつたら、それでおしまい。(育児日誌の中より) 恩がましくも云わず、義理に着ることもなし、只興えて満足、受けて満足、之が童心。

(9) 無私無欲、無道德的

童心の世界は無道德的乃至初步道義的であつて白紙である。不道德とは異なる。

だから大人の目で無道德的に見える所から童心の行爲を道德的規範から考へて叱つたりたしなめたりするのは、甚だ當らないことである。大人の方が間違つてゐる。一つの行爲をたしなめると、此の種の次の行爲に對しても効き目があると考へる大人は更に間違つて

ゐる。幼兒には冗談と嘘言との別がつかないのだから、冗談は禁物である。

ケフ ガクカウ カラ カハツテ ゴハン
ヲ タベテキタラ オカアサン ガ ウタ
バカリ ウタウ ノデ ワタクシ ハ オ
コツテ、
センセイ ガ オベントウ ノ トキ ニ
ウダ ヲ ウタツテ ハ イケマセン ト
オツシヤツタ ノダ ト ジャウダン ヲ
イヒマシタ。ソシテ ワタクシ ハ ホン
ト ノ ウナ カホ ヲ シテ イヒマ
シタ。ソレデ ワタクシ ハ オカシクテ
タマリマセンデシタ。
ソレカラ ソノコトヲ ニツキ ニ カイ
タ ノデ ゴホウビ ニ オカシ ヲ モ
ラヒマシタ。(等一、一學期)

漸く嘘言と冗談との別が芽生え初めた例である。
其の他拾い上げて見るなら随分幾多の特性が擧げられようが、童心の概要が斯様なものであつて見れば、その庇護齎培の一方策として、童話が選ばれる。童心に養いを與える童話は最も厳選しなければならぬことは説くまでもあるまい。現在行われてゐる童話が果して適切妥當のものであるか否か、

「子供の日」童謡懸賞募集

主催 株式會社フレールベル館

後援 朝日新聞社

協賛 文部省、厚生省

至保連、NHK

ビクター文藝部

一、歌詞 元氣潑瀾たる子供の生育をよるこぶ歌

二、靡蕪資格 制限せず 誰方でも懸賞出來ます

三、締切 二月末日

四、選定委員 倉橋惣三先生、大島課長

(文部省) 吉見課長(厚生省) 他文藝専門家數氏

五、當選發表 四月一日付朝日新聞の外

幼兒の教育、保育時報、保育の友誌上

六、応募方法 適宜用紙に歌詞を記載し住所所屬 勤先)氏名を記入本社童謡募集係宛

七、作曲 弘田龍太郎先生に依頼の豫定

△尙細詳は近く新聞紙上に發表いたします



保育要領に示された

『劇あそび』の實際について

東京都西櫻幼稚園

山 村 き よ

昨夏全國保育連合會新潟大會の折、研究發表をさせていただきましたが、時間がなく充分のべることが出来ませんでしたので、大會誌に原稿をおのせ願つたのですが、いろいろの手違いから先頃發行された大會誌には當日の速記だけしかのつておりませんので、今回こゝに發表させていたゞいて充分御批判をいたゞき度いと存じます。

（一）劇あそびの目的

新保育の一般目標として言葉の指導が示され、保育要領の中にも楽しい幼稚園の經驗として、ごつこ遊び、劇あそび、お話あそびは大變重要視されている現在、新保育の目的を達成する爲の一の遊びの手段として選ぶには最もよいのが『劇あそび』だと思ひます。最後に申上げます効果がよくこの目的を表はして居りますことを充分お考えいたゞき度いと存じます。

（二）劇あそびに必要な條件

まづ第一に考えねばならない事は

（一） テーマの取り方で御座いましてこれには次の様なことを考えねばなりません。

イ、 幼兒達の日常生活からキヤツチしたもの、

ロ、 躰の方面をとりあげたもの、

ハ、 おとぎばなし、繪本、紙芝居、等からある場面をピクチャーアップしたもの、

ニ、 一つの繼續したシナリオのもの、又は幼兒達の創作したお話の立體化、等々

でどこまでも幼兒の心理的な發達段階によつて私共が簡単な脚本を造つて與えることで御座います、とかく遊びの苦心にまけてあちこちとあせつては幼兒の心理的な發達段階も無視して造られた内容のものを吟味もせずに與えている場合も見受けられますが、こんな事は保育者として大いに考へるべきだと反省させられて居ります。私共はどこまでも自分達の預つて居ります幼兒達の日常生活の中に表はれた遊び、言葉

等をつとつて私共の力で劇的に脚色してやる努力がなければならぬと思ひます。こうして與えたものがやがて幼児の模倣性を通して、創作的なものに進み、やがて幼児達自身によつてひとりで脚色され發展して行く事を望むもので御座います。何と云つても未分化時代の幼児のばらばらな遊びを一つの遊びにまとめてやることは私共の力に恃つところが多いと存じます。そこで脚色にあつては次のことを考えねばなりません。

(2) 内容構成

イ、言葉は出来るだけ簡単に語句を少くくりかえしを多く用いること、

ロ、音楽と結びつけて構成を助けること、

ハ、多人数が活躍出来るような場面をつくること、

ニ、幕を少くすること、等

期待する効果を大にする爲には、どこまでも材料の吟味とその指導法が問題になつてくると存じます。そこでこの材料をよりよく幼児達に消化させる爲に、次のような細い心やりを必要といたします。

(3) 劇あそび指導上の諸注意

イ、言葉ははつきりと日常會話より少し調子を高くさせること、

ロ、言葉にリズムを持たせること、

ハ、全幼児にかわる／＼言はせて見て幼児達と相談して配役をきめること、

ニ、劇あそびに必要な諸道具はなるべく幼児達と一緒に造ること、

こうしてすべての方面に苦心して與えた材料が幼児達の興味に合致して、思いがけない効果の數々がつかみ得て喜んで居る次第でございます。次にその具體的なものを申し上げます、見ますならば、

(三) 保育効果から見た劇あそび

① 敗戦後の落ちつかない社會情勢に引きづられて生活して來た幼児達に、子供らしい喜びを與えると同時にある落ちつきを見せて來た。

② 個人差のある發達段階がよくわかり、個性がはつきりつかめて日常保育に役立つた。

③ 優者も劣者もよく自分の能力を發揮して皆と協力した發音を矯正すると同時に自然の内に言葉づかいをおぼえるようになった。

④ 各々自分の生活に自信を持つて安定感のある生活が出来るようになつた。

⑤ 民主的な幼児社會性のかん養の一助となつて、グループ生活がよく出来るようになった。

以上六つの事はごく一般的な事で大づかみにつかみ得た記録で御座いますが、この他に幼児一人／＼の個人的な性格に及ぼす効果は相當に多いものと存じます。また、自律の氣が、まゝを養ふ遊びには何よりも効果的な遊びだと存じます。

最近教育界にも問題となつて居ります、個人個人の教育効

果と行動の表はれが、この劇あそびを指導している間にはつきりとつかむ機会を興えられるので御座います。人前ではなかなか意志の發表の出来ない内氣な幼児が、劇あそびをした後では自由遊びの折に性格の弱い者同志で積極的にグループを造り、得意になつて演じていたり、又積極的に活動する幼児達は實にのび／＼と自己の意志を友達同志へ傳へ合つて、グループを造り實に上手に發展させてくれます。始めは教師の口うつしでおぼえた言葉も、テーマをはつきりつかんだ後は自分自分で言葉をかえてお友達をうまくリードしているほ／＼笑ましい情景も見られ、實際に此の劇あそびを興えて効果を得て居る者でなければ味はふことの出来ない喜び、又他の方々には想像も出来ない程の期待効果を得られるもので御座います。

よく小學校の先生方と話し合ひの折に問題になります事は『幼稚園の方が程度の高い事をして』と云はれる事が度々御座いますが、この點は幼稚園の生活全體についても云える事で御座います。幼児の發達段階を充分みつめて心理的な發達にうま／＼合致した材料が指導よろしきを得れば、幼児の興味に拍車をかけて面白いように進展して行くものでございます。『幼稚園だから』『幼児は何も出来ない』『させるのは無理だ』とあるわ／＼をはめて考えることは禁物だと思いません。殊に二年保育、三年保育、の年長組ともなれば、何事も保育の効果が表はれ、殊に就學前半々年度の幼児の中にはすべての生活に於てすばらしい發達を示してくれることがござ

ざいます。この事は永年保育の現場に居る者のみが聲を大にして申上げる事の出来る嬉しい體驗です。又私共保育者のみに興えられる喜びでございます。

附

昨夏の發表に間に合せる爲大急ぎで東京都公立幼稚園で現在迄に行つた劇あそびを『劇あそび脚本集』としてフレール館から發行しましたが、近く少々訂正増補して再版することになつて居ります。

文字です。つまり「と」です。そしてそれは「の」音を強く鋭く發したければならないことを示しているのです。」

「はいそれも知つてます。お母さんが(SS)の符號に就いて教えて下さいましたわ。」

「よろしい！ リナがお母さんのお言葉にそんなに注意深いことは嬉しいことです。お母さんにも私の喜びを話しておきましょう。併しリナは次にここにある二重符號(〇)を示して(〇)をも説明したり發音したりすることが出来るように學ばなくてはなりませんね。さあ詳しく調べてもらん。一つ一つの符號をリナは知つてるのだから。」

「ああ！ ほんとによく知つてますわ。それはCとHとですでも(〇)を一つの音に發音することが出来ませんわ。」

「出来ない？ 出来ると思ひますね。だつてお母さんはこの二つの符號、即ち文字をどう書くと教えて下さいましたかそれを石盤に示して見せて下さい。」

(つゞく)

フレールベル 著

『リナは如何にして読み書きを學ぶか』(五)

—— 楽しく忙しく働く子供達のための美しい物語 ——

莊 司 雅 子 譯

リナの短い訪問は子供達にとつて有益だつたばかりでなく否な！ 善きものや善きことを澤山幼稚園にももちこんだのである。即ち子供達を形の直観や形の關係に關するすべてのことに注意を拂うようにさせた。何故なら部分的な文字の並べ方の知識は其等の注意にかかつているからである。併し書き方の學習は特に正しい完全な話し方の注意にかかつている。最も小さい子供でも特に要求されたすべての事柄をなす場合たとえまだかすかであるとはいへ、若しこの要求が満足されたならばこの意志の満足から何か彼のためになるものが現われて来るだろうという豫感を有つに違ひないものである。この豫感は決して子供に隠れている利己心ではなくて、寧ろ自己保存の衝動や欲望の自然的な要求であり、全環境と適當な調和の中に自己を見出そうと欲するものである。

幼稚園から歸つてから昨日の午後のようにリナの最初の仕事は、午前中に彼女の大事な本の中に既に彼女が知つてゐる大文字と小文字とを比較してその一致點を見附けることだつた(實際リナは非常な喜びの中に二三成功したのである。)このようにして今朝も毎日リナがやることになつてゐるお掃除や整理・整頓などの一寸した義務を全部済ました後、そして簡単な朝食も楽しく済ましたので、リナは直ちに母の思慮深い指導に依つて注意深い方法で、リナに自らを知らせ自らを導くことを教えてくれる沈黙せる教師を探した。

先づ第一にリナは大文字を再び相互に比較して見た。そして間もなくこんなことを見附けた。つまり或るものは主線が三本あるが、他のものは二本だけであり、更には曲つてはいらなかつた一本しかないのがある。またどの小鉤も弧も彎曲

せるものも主なものであつたりそうでなかつたりすることを
も見附けた。リナはやがて間もなくこれを小文字の中にも見
附けた。その小文字の中にも全く同じように主線を三本有つ
ているものや、二本有つているものや、或いはたつた一本し
か有つていないものがある。(そして小鈎や小圓や曲線もあ
つたりなかつたりしている。)このようにしてリナは最早や非
常に澤山の小文字の發見に成功し、そして彼女が知つてた大
文字との類似點も、最早や疑いない事實となつた。小文字の
中の二三のものに就いては勿論繰返し繰返し度々比較したに
も拘わらず尙もその區別を正しく知ることが出来なかつた。

此等すべてに關しては、リナはもつと母のはつきりした眼差
しと導きの言葉とを希わねばならなかつた。それで嬉しい期
待を以てリナは晝の來るのを待つた。その時には母や叔父に
彼女の見附けたものに就いて説明しなければならぬのだつ
た。丁度その時一寸した用事で部屋にはつて來た母にリナは
喜びに満ちて叫んだ。「私はもう十二も小文字を知つてま
すよ」と。

「そう、それは嬉しいこと、ではお食事の時にそれを見せて
頂戴ね。そしたら二人でリナが見附けたものを試して見まし
ようね、さあもつと外のお仕事が出来るとしよう。そしてお
晝のために必要なものを用意しなさいね。」

リナが待ちに待つてた晝がとうとうやつて來た。ところが
同じように待ち焦れてた叔父が、今日は何時もと違つてな
かなか歸つて來なかつた。そのためにリナは自分の新しい進歩

とその喜びとを報告することが出来ないのを我慢しなければ
ならなかつた。併しとうとう叔父が歸つて來た。仕事のため
にこんなに歸りが遅かつたのだつた。叔父が母にそのことを
報告してゐたために、リナは叔父に彼女の愛する文字に注意
して貰うことが出来なかつた。ところがとうとう望んでいた
自由な機會が來たので、長く抑えていた深いため息と共に、
リナは彼女の勤勉の證據をいきなり持ち出し、叔父に向つて
「ごらんさい、叔父さん、私はもうすぐ殆んど全部の小文
字が解かるようになりますわ。そうすればすぐお父さんのき
れいなご本もひとりで讀むことが出来ましてよ。でもお母さ
ん見て頂戴、正しいかどうか」そして彼女は次のものを示し
た。父の手紙の中の文字と本の中の文字との注意深い比較に
依つて彼女の見附けた同意義の文字は次のようなものであ
る。M R m、N R n、U U u、W R w、V R o、O O o、P
R p、H r、R r、S s、K k、R r、Z z、
ただ R a、G e、G g、Q q、E i、C c。此等の文字は彼
女にとつて一寸曖昧だつた。ところが更に小文字の f f f f f
の f f f f f と其の他二三の文字など、彼女の全く知らない文
字を擧げた。「ねえ——叔父さん此等の符號は何を意味して
ますの？そしてどう發音すれば聽えるのか教えて下さい
ね。」リナは懇願するように叔父に向つて言つた。

「おお喜んで教えてあげますとも。殊に私は午後の仕事を今
朝やつてしまつたから、今いくらか時間がありますから、併
し私はこんなによくやつて來られたお母さんの教育の職務を

侵入したくないですね。」

「とにかく時間があるだけ今日はずつと教えてやつて下さいませ。私にとつてこんなに嬉しいことはありませんわ。今日はまだ澤山仕事がありますから。ではまた後ほど。」「あなたのお仕事とこの仕事と、どちらが上手に出来るか試してごらん下さいませ」と母は冗談を言い添えた。そして親しみに満ちたお辭儀をしながら「どうぞ宜しく」と言つて部屋を出て行つた。

「では石筆と石筆とを持つておいで、そして私達に出来ることを一つやつて見ましよう。」

いくらか描くことを知つた叔父は、先づ第一に例の曖昧な文字を各々その三種類の形に並べて明瞭に描いた。それから更に此等を二つづつ描いた。それに依つて一方のものに多過ぎるものは、他方では少な過ぎるが併し三つのどれにも本來的で、而もどれにも残つてゐるものが主要なものだといふことを、リナはたやすく直覺で知り、このようにして非常な喜びの中に曖昧な點は消えて、全く正確にこれを捕えるようになった。

「供し見たところ何處にも屬していないような他の文字はどうすればいいのですか。」

「ごらん、リナ」と優しい叔父が言つた。「もつと詳しく見てごらん。其等は殆んど組合はせた文字で、而もその一字々々はもう今までリナが知つてゐるものばかりです。リナのまだ知らない二三のものは「これとこれとせう。」そして同時に「

と」を示した。この二つの文字を今まで知つてたものの中から見附けることが出来なかつたのは、全く無理もないことです。實際それは非常に變つてゐるからです。SとCとの美しく曲つてゐる二つの文字は「」においては全く真直ぐに延びてゐる。だからリナは殆んど見附けることが出来ないので。勿論後の方は前の方から全く單純に現われて來たに過ぎないのだけれど。」

「私はそれをこのようにして考える方がよいと思ひますわ。丁度うねうねと曲つてゐる針金が、その大部分が真直ぐに延びたのと同じようなものだつて。」

「全くその通り。これでリナは前に知らなかつたし、またどうしていいのか解からなかつた大部分の文字を説明したり發音したりすることが出来るようになったでしょう。では先づ「」を見てごらん。」

「おお！ すぐ解かりますわ。それは二重のSですわ。」

「ではこれは？」と叔父は「」の文字を示して尋ねた。

「それもほんとにやさしいわ。それは「」と「」とが一緒になつたものです。」

「さうです。そして一つの音に發音するのです。ではリナはリナの文字でこの二三の二重になつた文字を書くことを知つてますかね、それを書いてごらん。」

「知つてますとも、それは「」STです。」

「この文字（「」を示しながら）がリナには理解出来なかつたのも無理はないのです。それも二重になつてゐる（二二頁へ）



保育關係文献解説(三)

愛育研究所
教養部 竹田俊雄

六 兒童の見方と扱い方

東京文理科大学内兒童研究会編

「兒童研究法」(兒童心理叢書一)

金子書房

昭和二十四年 A5二六〇頁

二五〇圓

兒童を科學的に見るためには、どのような研究方法をとつたならばよいかを概観する教養向ないし専門向の書。保育に従事する人々が兒童を見るにあたつて、この水準の教養をみなもつようになることが望ましい。この書の内容は次の五編から成つてゐる。

兒童心理學史綱

兒童研究の方法と問題

兒童觀察法

性格・個性・情緒の検査法

兒童の診断

後藤岩男

「兒童理解の方法」

昭和二十三年 A5三三二頁

二五〇圓

この書は二つの部分から成り、第一編兒童の心理では兒童の精神發達の概要と特殊兒童の心理とを述べ、第二編兒童理解の方法では、環境とか理解とかいうことを明らかにするとともに、生活實態調査や、觀察法、テスト法その他種々の兒童理解の方法について説き、教育相談にもよつと觸れてゐる。著者は當時東京高師教授で、主に小中學校の教師を對象としてゐるが、ゲンユタルト心理學からの兒童の見方を知るためには、保育者にも參考になる。教養向。

なおこの種の文献としては次のようなものがある。

教育心理研究会編「兒童研究法」

後藤岩男「兒童觀察の理論と方法」

山下俊郎

「教育的環境學」

昭和十二年 B6三六二頁

兒童の指導にあたつては、その環境の研究が重要であることはいうまでもないが、この書は教育的環境學の立場から、

東洋書館

目黒書店

岩波書店

一五〇圓

世界社

世界社

環境の概念を規定し、遺傳と環境とを説き、環境類型論を立て、環境の研究法を種々述べて、環境關係の基本的様式、環境技術學等を論じてい、その後半に及んで、社會的經濟的地位や家庭環境と言語發達や知的發達との關係、一人子や同胞數についての問題を具體的に取扱つてゐる。兒童の環境の問題を考へる場合、必ず讀むべき専門向文獻。

牛島義友

「教育のための標準検査」(兒童研究叢書三)金子書房

昭和二十四年 A5四二三頁

四五〇圓

兒童の知能や性格などを單に主觀的に見ずに、客觀的に検査することが、新しい教育で要求されている。この書はまず標準検査はどのような性質をもつものであるかを説き、日本で現在用いられるあらゆる知能検査(個別のおよび集團的)適性検査・學力検査・性格検査を網羅的に掲げて、その特質を述べ、いかなる場合、いかなる検査を用いることができ、それはどのように解されなければならないかを明らかにしている。心理的な検査をせよとする人の承知していなければならぬ文獻である。教養向ないし専門向。

教育心理研究會編

「現行知能検査法」

昭和二十四年 B6三二〇頁

二五〇圓

金子書房

これは知能検査がどのようなものであるかを解説したもので、その歴史、意義、種類、構成、その現狀と展望をまず述べ、検査の作り方を説いて、よい知能検査法とはどんなもの

をいうかを明らかにし、検査結果の現わし方とともに、その應用の場面を擧げ、實際に検査を行うにあつての注意を與え、現在行われてゐる主な知能検査法について紹介し、最後に知能検査と關係の深い統計法の概要を述べてゐる。知能検査を正しく理解するために便利な書である。教養向ないし専門向。

鈴木治太郎

「實際的知能測定法」(昭和二十三年修正増補)

昭和二十三年 A5三八七頁

三〇〇圓

東洋圖書

いわゆる鈴木ビネー式知能検査として、現在わが國で行われている知能検査中、もつとも完全な尺度といわれているもの。その検査について、理論的な特質、實際の測定方法、結果の應用等を詳細に説明している。この検査は大體三歳から成人までの知能を測定し得るから、幼児や學童の知能検査を行う場合にはこれを熟讀するがよい。専門向。

田中寛一

「田中びねー式知能検査法」

昭和二十二年 A5三四八頁

二五〇圓

世界社

前者とならんでわが國における個別的知能検査中、信頼されているもの。この検査法の特徴、實施上の注意、検査問題と検査方法、結果の統計的考察や利用の仕方が述べられてゐる。満二歳より成人までの知能を測定し得ることになつてゐる。専門向。

中島義友・木田市治
森脇 要・入澤壽夫

「乳幼児精神發達検査」(兒童研究叢書二) 金子書房

昭和二十四年 A5三四七頁 四八〇圓

愛育研究所編の乳幼児精神發達検査を詳しく説いたもの。

この検査は出生直後の乳兒から満六歳未満の幼兒にまで適用でき、低年齢の兒童の知能ばかりでなく、精神發達一般を測定し得るところに特色がある。この書にはこの検査法を簡單にした乳幼児簡易検査の問題、その他もつけ加えられているが、簡易検査は一般の保育者も容易に利用できよう。専門向であ。

知能検査の文献として以上のような個別的検査に關するもの外に、集團的検査に關するものも多く出版されているが集團的検査は幼兒の知能測定に適當ではなく、また兒童福祉施設に在る學童以上の問題の場合にも多くは確實な結果が見られないので、省略することとする。

牛島義友
波多野完治 編

「兒童の心理と能力検査」(教育心理學研究一) 巖松 堂

昭和二十四年 A5二四六頁 二五〇圓

六篇の教育心理學に關する研究と講座から成り立つてゐるが、幼兒に關係の深いものは次の論文である。

牛島義友 社會的生活能力検査

これは知能や知識とは一應別である生活能力を検査するも

ので、ここには一歳から 歳までの兒童の検査法が、その理論的な考察とともに示されている。たとえば「自分で着物をきる」ことが四歳兒の問題として挙げられている。幼兒や精神薄弱兒等の生活能力を知るのに用いられる。専門向。

牛島義友
波多野完治 編

「性格と社會性の検査」(教育心理學研究二) 巖松 堂

昭和二十四年 A5二三八頁 二五〇圓

教育心理學に關する八篇の研究と講座とを含んでいる。その中、幼兒に關するものは次の研究である。

兒童母性研究會 幼兒の標準検査

——幼兒性格教育検査と幼兒體力検査——

性格教育検査は、いかなる性格のものが日本の幼兒として好ましいか、理想を立て、それについて個々の幼兒の性格を評價するのであり、體力検査は、幼兒の疾走・立巾跳・投擲等の標準を定めて、その體力を測定しようとするものである。幼兒の性格や體力を客觀的に検査しようとする保育者に役立つ。専門向。

なおこの書はまた次のような論文をも含んでいる。

田中寛一 向性検査とその基準

戸川行男 性格検査としての精神作業検査

前者は内向性・外向性の問題を扱つており、後者はいわゆる内田・クレペリン検査について説明している。

牛島義友

「不良化傾向の早期発見」(兒童研究叢書一) 金子書房

昭和二十三年 A5一五六頁 一三〇圓

これは環境性格評定尺度・同簡易評定尺度・非行検査・不良兒童識別のための性格検査の検討の四篇より成り、最後のものには徳性検査・情緒性検査・劣等感検査・信頼性検査等が含まれている。兒童にこれらの検査を行つて、その性格を評定・検査し、不良化の傾向を見出そうとするもので、問題を扱う保育者の讀むべきもの。専門向。

戸川行男

「性格の類型」

昭和二十四年 B6三四三頁 二八〇圓 金子書房

この書は性格をクレツチュメルによつて考え、分離性性格・躁鬱性性格を現象的に述べるとともに、第三にヒステリー性性格を擧げ、さらに意識人と空想人、素質と環境、個と類型について、具體的な例を豊富に示しながら、きわめて興味ある敘述をしている。幼兒の性格を直接にはあまり談つていないけれども、性格というものを考えるには好個のものである。なほ末尾には分離性性格・躁鬱性性格・ヒステリー性性格の成人および兒童の客觀的ならびに主觀的な特徴の表が附加されている。専門向。著者は早稻田大學教授。

高崎能樹

「子供の個性と癖」(子供の教養叢書二) 草美社

昭和二十四年 B9一七二頁 一〇〇圓

阿佐ヶ谷幼稚園長である著者が、實際的の立場から個性に

ついて述べ、氣質別に、遊びや生活によつてこれを指導する方法を説き、さらにこどものおちいりやすいいろいろな癖についてその直し方をきわめて平易な調子で扱っている。一般向・教養向。

東京文理科大学内兒童研究會編

「生活指導と性格教育」(兒童心理叢書八) 金子書房

昭和二十四年 A5二五七頁 二四〇圓

これは次の五編より成つている。

性格教育 正木 正

環境の心理 桂 廣介

幼兒期の生活指導 山下俊郎

兒童精神衛生 桶口幸吉

パーソナリテイの發達 依田 新

「幼兒期の生活指導」は、直接幼兒の生活指導とはどのようなものであるかを取り上げ、食事・睡眠・排泄・着衣・清潔等のいわゆる基本的習慣がどのように形成されるかを具體的に示している。その他の研究もれぞれ兒童の生活をどのように導きどのように性格をつくり上げて行くべきかについて、保育者に教えるところが少くないであろう。教養向。

東京文理科大学内兒童研究會編

「學習指導」(兒童心理叢書九) 金子書房

昭和二十三年 A5三〇三頁 二四〇圓

保育ということは、一面において學習指導であり、この點から保育者は新しい教育において一般に學習ということがど

のように考えられているかを知らなければならぬ。この書にかかげられているのは次の七つの論文である。

- 學習指導の原理 石山修平
- 動機づけ (モチベーション) 小見山榮一
- 學習過程 武政太郎
- 問題解決と學習 中野佐三
- 學習と記憶 玉岡忍
- 新教育と教師 石三次郎
- 新教育と教育評價 長島貞夫

専門向。

七 観察と繪畫・製作

粟山 重

「幼児の科學教育 (保育叢書一八)

昭和二十一年 B6 一五六頁

巖松堂 一二〇圓

正しい幼児の科學教育はいかにあるべきかということ、観察を中心として具體的に説いたもの。正しい観察・觀察の材料とその排列・設備と備品・觀察の指導法・幼児に對する質問の答へ方・觀察保育と大切な娘・保姆の修養法・子供發達の調査・母親の教養について 季節保育についての十章から成つてゐる。幼児が科學的に伸びるためには、早くから實事實物に當つて直接經驗させることが重要なことを主張してゐる。著者は啓明學園教諭。教養向。

副島ハヤ

「幼児の繪畫と製作」 (保育叢書一八)

昭和二十四年 B6 二三九頁

巖松堂 二二〇圓

新しい保育の中で、製作というものがどんな姿であらねばならないかを説き、製作の教育的な價値を明らかにしてゐる。これがこの書の骨子の五分の一で、以下いろいろな製作の種類と方法とが、著者多年の豊富な體驗から次ぎ次ぎとかがけられ、繪畫 (これも自由畫から塗り繪まで、またクレヨン畫からブラツシ繪まで) 折り紙、切り紙、貼り紙、切り貼り紙、組立て紙細工、型細工、版細工、縫物細工、紐編細工、麥藁細工、粘土細工、木工細工、きびがら細工、自然物細工と、繪畫と製作のいろいろな分野にわたつて、その教育的價値・材料・方法・指導上の注意が、一三四圖の挿繪をそえて、きわめて具體的に説き明かされている。非常に親切にできた教養向の書である。著者は現に厚生省保育課勤務。

副島ハヤ

「子供と母親の製作玩具」

昭和二十三年 B6 一四九頁

片井商會出版部 二二〇圓

幼児自身で作れる玩具、母親や保育者が手製で作れる玩具を平明に解説したもの。製作物の圖版も豊富に入つてゐる。内容は、はじめに子供の遊びと玩具についての説明があり、次に手製玩具の作り方として、子供の繪を主とした玩具製作折り紙から出来るお面やかぶりもの、自然物・空箱・小布・空罐等を利用した製作玩具、竹や木片で作れる玩具、指つかい人物やあやつり人形、手製の樂隊道具など、いろいろなも

の作り方がていねいに述べられている。教養向、一般向。
瀧田要吉

「自然物のおもちや」

昭和二十四年 B6二二三頁

フレール館
二〇〇圓

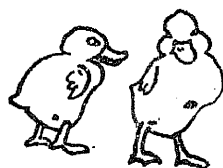
こども達が自然物をおもちやにするところから、この書は傳承的なものや、著者の工夫になる自然物の工作を、美しい挿繪や童心豊かな詩とともに描き出している。装幀からして非常に心をひきつけるような、この書自體が楽しい工作であることが特長であろう。内容ははじめに、教材としての自然物、形態の觀察について、かたちの省略について、かたちの誇張についてという一般的な説明があり、本文は春夏秋冬の四季にわけて、たとえば春ならば、花の細工として、うめのはなにんぎよう、れんげの花わ、春の草と葉つばとして、つくしのとんぼ、葉つばのてさげというように、繪を主にしてその工作を説明している。教養向。

發行所 所在地

- 金子書房 東京都文京區大塚坂下町一五五
- 世界社 東京都文京區音羽町三ノ一九
- 東洋書館 東京都千代田區飯田町一ノ六
- 目黒書店 東京都千代田區神田駿河臺三ノ一
- 岩波書店 東京都千代田區神田一ツ橋二ノ三
- 東洋圖書 大阪府南區北桃谷町四七
- 巖松堂 東京都千代田區神田神保町二ノ二
- 草美社 東京都千代田區神田神保町一ノ三三

片井商會出版部
フレール館
静岡市末廣町九六
東京都千代田區神田神保町二ノ四





子供讃歌 (五)

倉橋惣三

四繪の子供

1 ルドウイヒ・リヒター

その前から、彼は子供を主題とした小説、子供をうたつた詩歌俳句、子供を描いた繪畫、子供をあらわした塑像彫刻を好んで漁つた。それによつて、彼の藝術趣味と子供好きとが、あわせ満足させられた。極めて嚴密にいえば、そのうした主題本位は、眞に藝術に徹する途ではないかもしれない。その點で彼の藝術愛好は、その程度のものだといわれても仕方がないかもしれない。それは、彼が美術展覽會にゆくとき、いつでも、子供を描いた繪の前に長く立止つては、折角同じ室にある他の優れた作品を見落し、人の評判を思い出して、あと戻りして見るといつたことにもなつた。恥しい話である。が、だといつて、子供さえ出ていれば、どんなまづい歌でも繪でもいゝという譯では決してない。少くも、彼がほんものゝ子供において見るもの、自分では見つけられないところを見せて呉れるだけの藝術でなければ黙殺し或は侮蔑する。しかもそういう侮蔑の場合が極めて多い。彼は、學問だけでは見ぬき得ない『子供』を藝術家という彼の最尊敬する人々によつて見せて貰いたいと希つてゐるのに、それを裏切られる時には、失望位のことではあきらめられない。そこで侮蔑し唾棄する。その反對に、彼の青年時代の兒童研究が、東西の優れた藝術家によつて助けられたことは數限りないといつていゝ。殊に、子供というものを深く想わせられ、美しく味わせられ、生々と捉えさせられたことにおいて。その中には誰もよく知つてゐるレイノルズ、ミレー、ムリロー、ツンプツシュ等

々があつたが、最強く當時の彼の心を捉えたのは二人の畫家であつた。

或る春の日、内村先生が彼に一枚のドイツ版の色刷畫を下まつた。

一季は早春。山に近い丘の上、萌えそめる若草の上で五人の女の子がいる。その一番右の一人——寛かな野遊び衣に右肘をついて暢びくと投げだした足は、ふんわりと草に埋んでいる。何を見ているのかうつとりとした兩の視線は右手に持つた一輪の野花に注がれているでもない。茂みの蔭の石の上の小鳥に向けられていながらも、その目の遙に遠くゆくところを巡れば、丘つゞきの廣やかな眺めが畫幅の外にひろげられる。中の二人——花輪を組んで頭にのせた快活そうなのが、友達の肩へ手をかけて何事か面白そうに語れば、手をかけられた方は、つゞましそうに花を嗅ぎながら其の話を聴いている。そのうしろに一人だけ立つている子——編んで垂れた長い髪の毛がひらりと風を舞うて、中でも一番年下らしい頬の色の愛くるしさ、その張り上げる歌の聲が畫の中にも響き渡つてゐる。一番左の一人——丘の端に腰をおろして、しづかに彼方の谷を眺めている。青い連脈を越えた遠い峯には、雪がまだ美しく僅に残つて、追い追らざる春の寛かさを示している。少女らのいる丘がだらりと右へ下がつて、ちよつと小徑らしくなつてゐる處には、こゝにも幼い子供らの一組が、柔和そうな一人の老婆を圍んで遊んでいる。そこへ坂下から羊の群が来る。長い杖をもつた牧童が来る。徑を隔てた向い側の丘の上の森の傍には、苔むした小堂があつて、その屋根の頂きの小さい十字架が、明るい春の光に映えて見える。そのほかに、蒼い空に浮ぶ白い雲、ゆるやかに高く舞う鳥の群、長閑に霞む籠の色、少女らの傍にいる一匹の小狗までが、全幅の平和、快活の氣に相調和して、まことに心ゆく暢びやかさの上に、しかも何處までも靜かな邑の午後のつゞましさ、そよぐ風と共に畫面に満ち漂うている。

——ルドウイヒ・リヒターの傑作、*Auf Dem Berge* (山の上)である。彼が如何に陶然としてその畫に酔つたかは、その當時彼が書いた此の若い文章に溢れている。これが、彼がリヒターの作に接した最初であり、リヒターに心酔しだした初めであり、世の中にこんなにもきよく、清く、潔く、聖くいづれの字をあてべきかを知らぬ、こんなになごやかに子供を描いた藝術のあることを知つた初めであつた。彼は朝夕にその畫を眺めると共に、リヒターの自叙傳 (*Lebenserinnerungen von Ludwig Richter*) と、モーンの評傳とによつて此の畫家について詳しく知ろうとした。その上、丁度その頃一高のドイツ語の講師であつたグーデル氏が、リヒターの畫を澤山藏していられたのを見

せて貰うことができたのは、この上もない幸であつた。かうして彼のリヒターに對する愛着は、その後彼がドイツにいた間のリヒー蒐集にまでづつと長く続いた。

リヒターの大小澤山の作——實に澤山の——の中には、いつでもといつていゝ程子供が描かれている。それを假りに大別すれば(1)子供の生活そのものを描いたもの、(Kinderleben)として集められる類や、幾つかの童話集の挿畫もこの中に入る、(2)田園風景畫の中に子供のいるもの(リヒターの藝術的傑作は田園生活の自然を描いたものに多い)、(3)宗教畫の中に子供の配せされているもの(リヒターは篤信の心を畫面の隅々に漂わせて、所謂宗教畫の狭い範ちゆうに入らない、謂わば宗教的ふんいき藝術というべきものを澤山描いている)となし得るが、そうした區別に拘わらず、リヒターは、畫筆をとるといつのまにか、子供を描かずにいられない畫家といつた風である。リヒターの畫には、羊と小鳥と小犬と、子を抱く田舎の若い母と(屢々花嫁と)老人と子供とが必ず出てくるといえる程であるが、そのいづれもが集つて、リヒターの平和な、眞率な、敬虔な、牧歌的な畫面を構成している。構成などいつては意が通らない。寧ろ、それらの柔和な、純眞な、謙虛な幻想的な風物の調和の世界に、リヒターの藝術が、自分でも氣のつかない靜かた息をしているといつた方が當るであらう。だから、その中の「子供」についても、子供の生活の寫生というよりは、かすかな象徴性を以て描かれていることが感じられる。但し、その象徴性が觀念的な假象ではなくて、美學上のホホジンポリツシュであることはいうまでもない。すなわち、リヒターの子供は、箇々としては子供の如實の姿をもちつゝ、(そこにリヒターの兒童畫家たる力がある)畫中にあつてそのこゝろをあらわすのである。彼がリヒターを敬重するのも此點にある。こういう藝術にめぐりあわされたことは感謝すべきである。

2 カール・ラルソン

藝術による幸福は廣い。リヒターとは全くちがつた型の兒童畫家カール・ラルソンの畫集 *Das Haus in der Sonne* (「日なたの家」)にめぐりあつたのは思いがけない幸福であつた。眞にめぐりあつたといふたい。それまで名も聞いていなかつたのが、一度會つたら、まるで一見舊知の如しであつた。初対面といつたあたらたまつた表情なんか少しもなく、たゞにこゝと、すぐに心の奥底まで氣のあう間になつた。こんないゝ畫を紹介してくれたのは友人菅原(教造)であつた。そうして教えられて、丸善に注文して此の畫集を取りよせると共に、彼が編集しはじめていた「婦人

と子供』(後の『幼児の教育』)第十二卷第一號に、くわしいラルソン紹介を書いて貰つた。以下その文の中からあつちこつちと抜すいさせて貰う。

『ラルソンは今年(明治四十五年一月)六十歳で、スウェーデンに現存している大家である。ストックホルムで生れた人で、やはり其處に住んでゐるけれども、春から秋にかけてスウェーデンという田舎の別荘へ一家をあげて越して行く。そして此のスウェーデンに於ける自分の家族の生活の様子を、美しい水彩畫と輕妙なエツチングとに寫生し、これにラルソン獨特の美文で説明を附して、明治三十二年から四十三年にかけてストックホルムで出版した。』……

『子供を畫いた繪もいろ／＼あるけれども、ラルソンほど數も多く變化のさまざま／＼な繪を畫いた人はない。子供を畫いた繪もさまざま／＼あるけれども、ラルソンの繪ほど形式と内容と、即ち畫き方、線や色や光線の表はし方と、繪に畫いた子供のありさまとのよく調和した繪は餘り多く見受けられない。』……

『デンマークの畫家は十九世紀の半頃迄、其國丈けに止まつて世界の舞臺に出なかつたけれども、スウェーデンの畫家は十八世紀において既に歐洲の藝術史の一角を占めた。』

現今では世界の大家として有名な人が澤山ある。中でも小兒畫家ラルソンは最有名人である。』……

『ラルソンは近代のスウェーデン藝術家の中でも、子供の心を持つて居る唯一の人である。彼は純粹のストックホルム人である。彼の藝術は彼の人物の如く快活で、輕易で、且つ陽氣で、しかも向けんらんたる裝飾的な味わいがある。又彼の繪は清新で、若々しく、そして絶えず暖かな、にこやかな心情がこもつてゐる。斯くの如き感情のありのままの且つ直接の表出というものは……スウェーデンにおけるラルソン自身の家の家族生活、即ちスウェーデン風の木造家屋の内外の有様、及びブロンド色の髪と青い眼の彼の家族の肖像や活動などを畫いた畫集四冊に十分示されてゐるこの畫集をひもといて見る人は、恍惚としてラルソンのような人物になり、ラルソンの畫のような精神になり。淋しい心も憂鬱な情も、この繪本のためにおのづと暖かに暢びやかに開いて、善と美と喜びとに充ち溢れる。實に畫人たり詩人たるラルソンが幸福なる家庭の愛の生活を語るものは、此の畫集である。』……

ラルソンの幸福なる家庭の愛の生活を構成してゐるものは、父ラルソン、母カリン、男の子ウルフ、ボンツス、女の子スサンネ、エブシヨルン、リスベト、ブリタ、ケルスチの九人であり、それがラルソンの畫の中に出てくる。それも、よそいきの氣どつた身なりや顔つきではなく、ふだん着(或はねまき)のまゝ、いつもの顔(大抵はふざけて

笑つてゐる顔)で出てくるのである。その場所も、食堂、寢室、子供部屋、臺所、庭、そしてラルソン自身の畫室といつた、ほんとうにうちのなかである。一枚の畫に、その畫室で、おやぢのラルソンが、禿げた頭の上にブリタをのせて、地藏眉の下の優しい眼を、眼鏡をはづした爲かいと細くして、しわくちやの黒地赤裏という仕事服で立つてゐるところがある。どれもそういつた調子である。その他、此の小兒畫家の畫いてゐる子供は、自分の子供ばかりである。

彼がラルソンにおいて、特に興味と親しみとを感じたのも此の點であつた。自分の子供ばかりを畫いた小兒畫家というものは他にあまりない。我が子をモデルにすることはあつても、モデルの中の一つとするだけで、他の子どもを畫かないのではない。それが、ラルソンにあつては、小兒畫家というよりも、我が子畫家である。これはラルソンとしてどういふ理由乃至理屈があつたものか知らない。又、これは「小兒畫家」として物足りないことだという人もあるかも知れない。しかし、彼は、それを何ともいえず面白がつた。何んだか心憎くも思つた。(ラルソンには、心憎くいといつたようなことは聊かもないのだが)。何はともあれ、彼とは年齢が倍もちがう此の老畫家を、尊敬を飛びこして、いきなりに親愛して仕舞つたのも此のゆえであつた。

兎に角、ラルソンは、子供というものを畫こうとした理想主義小兒畫家でなかつた。子供以外の題目のために子供を畫く象徴主義小兒畫家でもなかつた。子供を繪にして藝術の子供に酔おうとする小兒畫家でもなかつた。従つて何かの標準で繪にする子供をさがす小兒畫家ではなかつた。——勿論、そういう小兒畫家から、多くの貴いものを與えられる感謝を忘れてはならないが、そうでない小兒畫家ラルソンからも、彼は極めて貴いものを與えられたのであつた。子供というものについてとなく、この子、その子の徹頭徹尾具體の一人々々の子がそのありのままに繪であることとを。

一方にリヒターを、一方にラルソンを。——多幸な彼は、どうしてこうも偏りなき教えを受けたものであろう。

3 『コードモノクニ』

子供を最もよく觀るものは藝術家である。そのすぐれた表顯を通して、子供を學ぶのが「繪の子供」修業である。しかもその修業をつとけている間に、彼のいつも思うことは、自分にも繪がかけたらということであつた。子供をほ

んとうに観ることもむづかしいが、子供を表現することは尙むづかしい。心理學の學語ではなま／＼しさが出ない。といつて平凡な散文ではいき／＼しさが出ない。子供というものを抽象的に何んとか語つてみることはできて、子供の生活を浮彫りすることも、フォーカライズすることもできない。そこで子供の生活の具體のモメントを活寫した古人の和歌や俳句や詩を、さも自分の作のような氣になつて口づさんでも、うまいもんだなという感心は邪魔になつて、自分の子供にならない。といつて、そつと自分で一句やつてみると、まづいなと思つばかりでいよ／＼以て自分の『子供』が詠み出されない。それに、表現の不完全はまあ仕方がないとしても、文字による限りどうも觀念的になつて困る。遊ぶ子やとか、子どもかなとか詠嘆顔はしてみても、一寸洗つてみれば理屈のかたまりで、『論文の子供』以上、何んら『詩の子供』にならない。いゝかえれば、あるがまゝの具體のその子でない。一茶やスチーブソンでは、流石に子供が目の前に見えてくることがあるが、彼の俳句や和歌では、詩の形で實は子供を想つてゐるに過ぎないことが、いつも我れながらもどかしかつた。彼が自分にも繪がかけたらと思つるのは、そういう時であつた。

勿論、實に勿論、彼には繪がかけない。そ、繪のかけない彼が、『繪の子供』を鑑賞するばかりでなく、兎に角にも見せる方の側に立つて『繪の子供』の製作の經驗に觸れることのできたのは、幼兒繪雜誌『コドモノクニ』の編集顧問になつてからだ。そうして、當時の著名の小兒畫家諸君と共にしたその仕事に、彼が興味を傾倒したのも當然であつた。但、顧問というとさもためになる人のようだが、まぎ若い彼にとつてためになつたのは、自分の方であつた。毎月執筆の畫家諸君は、いづれも後の錚々たる大家の若い時代で、清新潑瀾の畫筆と共に、良心的幼年繪雜誌の先驅者としての意氣の所有者のみであり、企畫にも、檢討にも、相互批判にも、非常に眞劍であつた。その編集會議が彼にとつて大に有益であつたことはいふまでもない。その場で語りあわされることは、すべて『繪の子供』を畫く苦心であつて、畫ける彼が時たまに口ばさむのは、子供たちは何を見、どう遊びたいのでしようかということだけだつた。つまり、もの言わない『繪の子供』に代つて畫家諸君にお願ひするだけで、子供當人が、どう眞實に畫き出さるか、諸君に信頼していればいゝのだつた。子供に見せる繪本で、何がいけないといつて、眞實に子供の心をもたない子供ぐらいいけないものはあるまい。それは子供の繪ではあつても『繪の子供』とはいえない。これがお前たちだよといつて見せられて、子供たちがさぞ面くらうであらうからである。しかも、そんな時そんな心もちをする

管のない子供の顔や、年齢を無視した子供の身体が、美化にせよ醜化にせよ、平氣で畫かれていることが少なくない『ゴドモノクニ』ではそれが嚴密に注意せられた。

彼は『ゴドモノクニ』の編集に参加したお蔭で、子供の見る美しくすなおな世界を、若き清水義雄君と、共に見た。子供の住む楽しい想像の世界を若き武井武雄君と共に楽しんだ。同時に、美しく楽しい子供そのものゝ生活を若き岡本歸一君と共に………畫いた。これらの筆の人と共にというのは變に聞えるかも知れない。殊に岡本歸一君と共に畫くとは、あり得ない以ての外のことゝ聞えるでもあろう。しかし、彼は『ゴドモノクニ』では、どこまでも、『繪の子供』を作るために、これらの美術家と仕事を共にしたのであり、従つて（？）當時の子供たち（後の父母たち、祖父や祖母たち）に著名な岡本歸一君の『繪の子供』を、自分が畫けたら畫くであらう『繪の子供』として愛したのであつた。岡本歸一君は、生れながらの小兒畫家といつた人柄の人であつた。虎を畫く名人が虎のような人という譯ではなからうが、小兒畫家はその人柄であることが條件らしい。リヒターがそうだ。ラルソンがそうだ。彼は岡本歸一君の月々の作品を愛すると共に、是非後世に傳へるような大作を畫いて貰いたいものだと思ひもし、岡本君にも常に話した。その志は必ずあつたであらうと思ふが、早逝された。幼年繪雜誌が非常に多くなり世の注意をひくようになつたのは、その後であるか、彼は當時の良心的な『ゴドモノクニ』と Kitchi のサインを常に思ひ出す。そして、單に名畫を觀賞するとは別の側からの『繪の子供』の修業の機會を與えられたことゝ、理想的幼年繪雜誌というもののえの夢を抱く初めをなしてくれたことについて、彼は此の最初の經驗に感謝を感じている。

子供を、その生活のまゝに直觀したい。その直觀のまゝを把握したい。子供の研究が其の前のことか後のことか分らないが、子供の教育は、たしかに其の後のことである。子供を把握することなしに何れの教育ができよう。しかも、それは、教育のための兒童研究によつては得られない。子供のための兒童研究でなければ得られない。幼年繪雜誌の誌は、子供に子供を與える仕事である。子供を教育しようというよりも、子供を満足させようということとは、幼年繪心である。そのために、その頁々には『繪の子』が活躍していなければならぬ。子供を教える前に満足させる仕事の經驗を若い日にもつたことは、彼の大きな幸であつた。

記録

幼稚園教育課程

幼児指導要録協議會

文部省においては、幼児教育についての具體的な目標を示すとともにその指導の效果の判定に必要な指針を與えるため現に幼児教育に従事している者及び學識經驗者等による協議會を左の要領によつて開催することになつた。

1 名 稱 幼稚園教育課程幼児指導要録協議會

- 2 審議事項
- (一) 幼稚園の教育課程について
 - (二) 幼児指導要録作製について
 - (三) 幼児教育における指導上改善を要する事項
 - (四) 幼稚園の施設設備等の再検討

3 開催期間 昭和二十五年一月より三月まで

4 委 員

お茶の水大學東京女子高等師範學校附屬幼稚園主事 及川 フ ミ

奈良女子大學奈良女子高等師範學校附屬幼稚 主事

靜岡大學靜岡師範學校附屬幼稚園主事
 埼玉大學埼玉師範學校附屬幼稚園主事
 東京都墨東區立竹町幼稚園長

大阪市立桃園幼稚園長

明石市立播陽幼稚園長

東京都港區立西櫻幼稚園教諭

東京都千代田區立番町幼稚園教諭

東京都品川區聖美幼稚園長

東京都中野區感應幼稚園長

東京都世田ヶ谷區東玉川幼稚園長

東京都目黒區柿の木坂幼稚園長

神奈川県小田原市こゆるぎ幼稚園長

東京都港區立南山小學校長

東京中央區立桑地文海小學校長

東洋英和女學院教授

聖和女子學院教授

國立教育研究所

恩賜財團母子愛育會愛育研究所研究員

立教大學教授

埼玉縣浦和市浦和幼稚園長

なおその第一回總會が一月十三日午前十時より文部省會議室において左の要領によつて行われた。

1 按 抄 文部省初等教育課長 大島 文 義

小川 正 通

鈴木 信 政

野間 郁 夫

鎌田 志 ん

岡田 志 げ の

内 匠 ち ゑ

山 村 き よ

徳 久 孝

内 山 憲 尙

青 柳 義 智 代

宮 村 治

佐 藤 初 重

本 多 玄 州

小 林 操

向 山 嘉 章

M.F. SCRUTTON

ANNE PEAVY

海 卓 子

平 井 信 義

森 脇 要

長 沼 依 山

- 2 挨拶 (C I E ヤイデーカウ)
- 3 委員紹介
- 4 議事

(1) 委員長及び副委員長の選舉

(2) 今後の運営方針についての協議

- A 教育課程について
- B 幼児指導要録について

官廳公示連絡事項

私立學校法公布さる

昭和二十四年十二月十五日法律第二百七十號で私立學校法が公布され、公布の日から三ヶ月後から施行されることになった。

この法律は私立學校の自主性を重んじると共に、その公共性を高めることによつて私立學校の健全な發達を企圖したもので學校教育法第一條に規定する學校のうちの私立學校と同法第八十三條第一項に規定する各種學校のうちの私立がその適用を受けるものである。

この法律は、本文五章六十七條と附則二十一項とからなりその第一章ではこの法律の目的、所轄廳によつて、第二章で

は所轄廳の權限、都道府縣知事の事務、私立學校審議會について、第三章では學校法人について、第四章では私立各種學校、學校法人についての類似の名稱の使用禁止について、第五章では罰則について規定している。

幼稚園については、設置者が今後も學校法人でなくともよいこと。

その設置廢止及び設置者の變更は所轄廳(私立大學に附屬している幼稚園については文部大臣、その他の幼稚園と幼稚園を設置する學校法人については都道府縣知事)の權限に屬すること、免許狀に關する事務は都道府縣知事が行うこと、私立學校審議會の委員となることができること等は關係深い點である。

教育用關係用品の

物品税減免について

昭和二十五年一月九日文施學第一〇號で別記のように文部省管理局から、各都道府縣知事及び各都道府縣教育委員會へ物品税の減税又は免税についての通達がでた。

この通達は、物品税法及び物品税法施行規則の 部改正に基づくものでこの改正により幼稚園においては、運動具、ピアノ、オルガン、蓄音機、同レコードが免税物品としての指定を受けたがこの外教育用品について大幅に非課税物品とな

つたもの、税率の低減されたもの、免税點の引上げられたものがあることは（別記の表参照）非常に喜ばしいことである。

文施學第一〇號

昭和二五年一月九日

文部省管理局長

各都道府縣知事
教育委員會 殿

教育用關係用品の物品減免について

物品税法一部改正に伴う教育關係用品の物品税減免一覽

1 非課税物品に指定された主な教育用品

品 種	分 類	税 率
(1) 計 算 器	丁 類	三〇%
(2) タイプライター同部分品 及附屬品	〃	〃
(3) 騰寫器及同附屬品	〃	〃
(4) 傘	〃	〃

現下教育豫算の窮迫している折から、教育關係用品に課せられた物品税を減免することは、教育管理上著しい効果をもたらすものと思われるので、従前しばしば大藏省と接衝を續けていたところ今次の税法改革を機會に大幅にとり入れられ、昨年12月27日付法律第二八六號物品税法の一部を改正する法律、同日付政令物品税法施行規則の一部を改正する政令として公布されたが、その要約は別紙の通りであるから貴管下學校長あて周知せられ、改正の趣旨徹底並にその利用方に遺憾ないよう取計われたい。

追つて詳細な解説については、關係先とも協議した上で近くのうちに通達するから豫め御諒詳願いたい。

種 類 法

施行規則で指定された品目

- イ、タイプライター（但し電信用のものを除く）
- ロ、タイプライター同部分品及附屬品、原稿臺、寫眞、カパー、リボン、
- パット、活字、活字貯藏箱及複式金額タイプライター用印番動輪
- イ、騰寫器
- ロ、騰寫器附屬品
- カパー、スクリン、インキ布、ローラー、ローラー把手、インキ
- 鐵板、鑪（秤を附したるものを含む）及鑪秤
- ハ、洋傘（ビーチパラソルを含む）但し價格一個につき五百九十圓に満たざるものを除く
- ニ、其の他の傘、但し價格一個につき百三十五圓に満たざるものを除く

(5) 履物同部分品及附屬品 戊類 二〇%

(6) 事務用器具及事務用品

(7) 電話器、電話交換機同部分品及附屬品

(8) 靴

(9) ランドセル 丁類 三〇%

(10) 文房具の一部 〃 〃

2 税率の低減された主な教育用品

低減率 品種 改正法 分類 税率(%) 分類 税率(%)

三〇% 樂器の一部 丙類 五〇乙類

八〇

品目

イ、下駄草履及其他の履物、但し價格一足につき八十圓に満たざるものを除く

ロ、鼻緒、但し價格一足につき三十五圓に満たざるものを除く

ハ、爪掛、但し價格一足につき二十五圓に満たざるものを除く

イ、番號器及附屬品、紙纒器、パンチ類、手形印字器、手形打抜き器、手形打抜きスタンプ臺、デスタンプ、簿記機、定規、算盤、計算尺、キヤンシ

ロ、ペン類(ペン先を附したるものを含む)筆、筆入、筆巻、紙挟、書類

ハ、摺及鉛筆、削器、繪具、油、インキ(印刷用ものを除く)墨汁、木墨液、イ

イ、電話機(携帶型及防塵型ものを除く)及電話交換機(局線中繼臺を

含む)電話機及電話交換機の部分品並に附屬品、送話機、受話器、送話器、

胸掛電話器、磁尺電鈴轉換器、ダイヤル、プラグ、背面板、電池、蓄

音器、繼電器、接續回路、回路用機器取付鐵板、交換器用ランプ、電

電鍵、回路用ジャック及ランプジャック

靴、但し價格一足につき四百八十圓に満たざるものを除く

匣箱、書箱、書籠、硯、パレット、パレットナイフ、筆立、矢立、硯

用蓋、墨臺、肉池水入、ペン立、ペン皿

ピアノ、アコーディオン、バンドニオン、ガイオラ、セロ、コントラバス、マンドラ、マンドリラ、マンドセロ、マンドローネ、ギタローネ、バラライカ、ウクレレ、バンドジョー、フリユート、ピッコロ、クラリネット、オーボエ、バスーン、ホルン、サクソフォン、トランペット、ホルン、アルト、バリトン、チェロ、サクソフォン、スザホーン、ホルン、バイラポリン、鐵琴、チェロ、フ

二〇% 寫眞機映寫機 乙類 六〇乙類 八〇

蓋音機 乙類 〇

萬年筆、シヤープペンシル 乙類 一〇丁類 三〇

一〇% 運動具 戊類 二〇丁類 三〇

マイク、ロホン、擴音機、擴音器 乙類 〇

ミシン及同部分品並アイロン及裁縫機 乙類 一〇乙類 二〇

3 免稅點の引上又は新設された教育用品

著音機(ラジオ聴取装置を附したるもの及びレコードプレーヤを含む)

萬年筆、萬年筆用ペン先、萬年筆軸、シヤープペンシル、萬年筆入及シース

イ、ボール(軟式野球用及軟式庭球用のゴムボールを除く)チュー

イブ、外皮、バツク及シヤトルコツク

ロ、ネット、ネット長具、ネット締金具及びセントリストラツ

ハ、ベイス、グロブ、ミツト、マスク、胸當、腰當、甲當、脇

當、圓盤、砲丸、槍、鐵槌及フエンシツク用劍

ニ、バツト、ラケツト、ラケツトプレス、ラケツトフレーム、カ

ツト及ホツケケ用又はルツキゴルフ用スケツク

ホ、卓球及卓球支柱、浮輪、スキー、スキーブレス、スキーエンジ、スキー

ト、弓矢、的、フープ及びエキスパンダー

チ、登山用のテント、スリーブ、ビツケル、コツヘル

リ、野球、庭球、ホツケケ、其の他球技用、陸上競技用、拳闘用、

登山用の皮革製運動靴

イ、ミシン(工業用ミシンを除く)

ロ、ミシン部分品、頭部、脚部及臺

ハ、電熨又は瓦斯を熱源とするアイロン及裁縫用鐵

紙を除く

靴・リュクサツク 一個 免稅點 一、〇〇〇円

舊法の免稅點 三五〇円

人形玩具	又は一組	個	八〇	一〇
インキ入及インクスタンド	個	一	二〇〇	一〇〇
帽子	個	一	二〇〇	二〇〇
糊類、机及卓子類並寢臺	個	一	二〇〇	一、五〇〇
椅子腰掛類(診療理髮椅子を除く)	個	一	二〇〇	一、五〇〇
電球	個	一	六〇W	四〇W
萬年筆	個	一	一〇〇	一〇〇
シャーペンシル	個	一	五〇	一〇

4 特殊用途免稅物品の指定を受けた教育用品(側線の品目は新に指定されたもの)

(1)

幼 稚 園 學 校 の 種 類

運動具、ピアノ、オルガン、蓄音器及同レコード、

椅子及腰掛、運動具、寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、蓄音機、蓄音器用レコード、ピアノ、オルガン、アコデイオン、ハルモニカ、ヴァイオリン、オルゴン、セロ、コントラバス、フリユート、ピツコロ、クヅリネット、コルネット、トランベツト、サクソフオン、木琴、鐵琴、箏三絃、ドラム類、タンボリン、シンバル、カスターネット、トライアングル、絃樂器用の絃弓及撥、

小 學 校、中 學 校

運動具、寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、蓄音機、蓄音器用レコード、ピアノ、オルガン、アコデイオン、ハルモニカ、ヴァイオリン、オルゴン、セロ、コントラバス、マンドリオン、ギター、フリユート、ピツコロ、クヅリネット、コルネット、トランベツト、サクソフオン、木琴、鐵琴、箏三絃、ドラム類、タンボリン、シンバル、カスターネット、トライアングル、絃樂器用の絃弓及撥、

顯音器並樂器用ケース、幻燈機、實物投影機、ラジオ聴取機、マイク、クロホン、擴聲用增幅器及擴聲器、椅子及腰掛、運動具、寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、蓄音機、蓄音器用レコード、ピアノ、オルゴン、セロ、コントラバス、フリユート、ピツコロ、クヅリネット、コルネット、トランベツト、サクソフオン、木琴、鐵琴、箏三絃、ドラム類、タンボリン、シンバル、カスターネット、トライアングル、絃樂器用の絃弓及撥、

高 等 學 校、專 門 學 校、養 護 學 校

小、中學校に指定された物品に同じ

大 學

運動具、及小中高等學校に指定された樂器、但し教員養成を目的とし音樂を必須科目とする學部の用に供するもの

(2) 教科用圖書にして文部省に於て著作権を有し又は検定をなしたるものの用に供する紙
考

物稅稅法施行規則第廿六條

品稅法第十三條第一項第三號の規定に依り物品稅を免除する物品を定むること左の如し

一、二、三略

四、教育用に供するもの、但し左の各號に掲ぐる物品に限る

イ、學校教育法第一條に掲ぐる學校が其の學校に於て使用するため購入する運動具

ロ、小學校、中學校、高等學校、盲學校、聾學校若は養護學校が其の學校に於て使用するため又は教員養成を目的とし音樂を必須課目とする學部を置く大學が其の學部に於て使用するため購入するピアノ、オルガン、アコーディオン、ハーモニカ、グアイオリン、ゲイオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、ギター、フリユート、ピッコロ、クラリネット、ホルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バリトン、チューバ、サクソフオーン、木琴、鐵琴、箏三絃、ドラム類、タンポリン、シンバル、カス

タネット、トライアングル、絃樂器用の絃、弓、撥、弱音器並に樂器用ケース

ハ、小學校、中學校、高等學校、盲學校、聾學校又は養護學校が其の學校に於て使用するため購入する寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、蓄音器、蓄音器用レコード、幻燈機、實物投影機、ラジオ聴取機、マイクrohホン、擴聲用增幅器及擴聲器

ニ、幼稚園がその幼稚園に於て使用するため購入する蓄音器、蓄音器用レコード、ピアノ及オルガン

五、略

六、教科用圖書にして文部省に於て著作権を有し、又は検定をなしたるものの用に供する紙

會から

○新年のお祝いを申上げます。御健康と御活躍とを祈ります。

○本誌も御高誼によつて、發行部數も増加、編集も益々微力をつくして、保育界のためにお役に立ちたく新しい熱意に充たされていきます。

○此の數年頼みに隆昌の勢を呈している保育界は、今年において更に如何に進展するでありましょうか。一九五〇年の保育界の充實こそ、御同様の願ひであります。

○坂元彦太郎氏が新任後繁多を極められているところを、本誌の乞ひに應じて特に寄稿して下さつたことを感謝します。氏の幼年教育の理想は同じくわれらの理想でなければなりません。

○根岸草笛氏は全國保連の新副會長として、北日本保育界に重きをなしていられることの外に、草笛の名にふさわしい文章家として、豫ねて幾多の著書で保育界に知られている人本誌は特に此の趣味多き寄稿を乞いました。○守安了氏の稿は、重心の行き届いた理解を以て教育のこゝろに示唆を與えられることが多く、山村きよ氏の稿は、保育實際家として劃あそびを通して幼児のこゝろを活かされる

ことこのまやかなものであります。

○莊司氏と竹田氏の稿は、引つゞき數回継続の豫定であり、倉橋主幹の『子供讃歌』はまだ端緒に入つたに過ぎないということです。

○倉橋主幹には強てお茶の水女子大學教授退官を願ひ出ていられましたが、昨年十二月願に依つて官を免ぜられ、その後を承けて、及川文子氏が附屬幼稚園主事を命ぜられました。

倉橋主幹及川幹事の日本幼稚園協會における關係は從來の通り變りなく、本誌を始め、いよ／＼會の事業のために力をいたされる筈であります。官にあると野にあると幼児保育に對するその熱意は一貫しているという譯であります。

『幼児の教育』編集

編集主任 倉橋・三
協力委員 牛島義友
及川ふみ
齊藤文雄
多田鐵雄
波多野完治
山下俊郎
(五十音順)

編集委員 西山浪太郎

日本幼稚園協會

幼児の教育 第9巻 第一號

定價 金拾圓

昭和二十五年一月十五日印刷

昭和二十五年一月二十日發行

東京都中野區千光前町一〇

編集兼 倉橋 惣三
發行者

東京都文京區柳町二二番地

印刷者 杉山 龜吉

東京都文京區柳町二二番地

印刷所 第一印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)三九七一番

振替 東京一九六四〇番

○本誌御購讀について洋文申込その他は凡べて發賣所フレイベル館宛に願います

新 學 期 用 品

保 育 日 誌

B 5 判 二二〇頁

定 價 一八〇圓

〒 35圓

東京都保育連合會の選定に成るもの、自由保育の線に沿う、つけ易く、無駄のない自由記帳式日記、装幀も堅牢美麗。

在 籍 簿

50枚1組 定 價 二〇圓

在 籍 記 録

50枚1組 定 價 二〇圓

出 席 簿

20枚1組 定 價 一〇圓

身 體 檢 査 表

50枚1組 定 價 二〇圓

保 育 證 書

大 判 定 價 3圓

小 判

定 價 二圓五十錢

〒 大判 二〇〇枚まで三五圓
小判 三〇〇枚まで三五圓

園名刷込みの場合は、實費 申し受けます。

保 育 料 袋

進 呈

Kindergarten プックを御愛顧願つてゐる園にのみ、無料進呈する美麗色刷の袋

出 席 カ ー ド

表紙共13枚

定 價 二五圓
〒 50組まで 55圓

出 席 カ ー ド 用 貼 紙

箱入り(10人分12ヶ月入り)

定 價 三六〇圓

袋入り(20人分1ヶ月入り)

定 價 六〇圓
送料 35圓
送料 6料圓

紙質は、艶紙で、裏はアラビヤ糊引。

マ ン テ ン ク レ ヨ ン

極太巻

八色一箱 五〇圓 送料12箱マデ 35圓

バラ賣(一本) 五圓 送料200本マデ 35圓

細巻

八色一箱 二八圓 送料24箱マデ 35圓

バラ賣(一本) 三圓 送料400本マデ 35圓

ク レ ヨ ン ケ ー ス

一箱二五圓 送料30箱マデ 35圓

組 別 名 札

一ヶ二圓五十錢 送料100ヶまで 35圓

先 丸 鋏 (錆 止 め)

定 價 30圓 送料30箇マデ 55圓
送料60箇マデ 55圓

發 行 所

東京都千代田區
神田神保町2の4

フ レ ー ベ ル 館 保 育 用 品 株 式 會 社

振 替 口 座
東 京 38171

観 察 繪 本

キンダーブック

KINDER-BOOK

キンダーブックのフレーベル、フレーベルのキンダーブック——この繪本は餘りにも有名です。發刊以來既に通卷 250 號を發行し、全國の各幼稚園保育所をはじめ、健全な家庭から、學齡前の幼兒に無條件に與へられる代表的な繪本として積々の好評を載いてをります。先頃連合軍總司令部 C I E より發表ありましたものゝ中にも、アメリカにおいても類誌のない独自のものであるとの御言葉がありました。企畫、編集、用紙、着色、製本凡ゆる面に不斷の精進をつづけ、號は號を追つて益々良いものを世に送りたいと努力してをります。次代の日本を背負う愛兒のためのこよなき心の糧であります。

B 5 判・16 頁・月 1 回發行・定價 30 圓・送料 3 圓

幼稚園
保育所

お話と人形芝居

内山 憲 尚 著

A 5 判 二二〇頁 二二〇圓 一 二二圓
 △保育要領で今度談話はお話と變りました。新しく生れたお話とはどんなものか、その基礎的な知識を與え、お話の取扱い方、童話の話し方、資料の解説までしてあります。
 △人形芝居については、歴史から製作法、演出法をのべ、澤山の寫眞や圖を入れて、誰にでもすぐ出来る様に親切に指導してあり、幼兒向き人形芝居脚本三篇を改めてあります。

劇あそび (脚本集)

東京都保育會編

B 6 判 一六三頁 一二〇圓 一 一二圓
 △名作童話 新作童話を劇化した幼兒の生活の再現です。收めるところ二十篇。すべて 圖で實演されたものばかりです。

楽しい遊び

東京都保育研究會編

B 5 判 八〇頁 一六〇圓 一 一二圓
 △リズム遊びの各種類のものを集めました。明るい曲、楽しくかんたんに出来るものばかりを収めたものです。

全國保母試験問題集

附受験の手引

厚生省兒童局
保育課編

A 5 判 七五頁 八〇圓 一 一二圓
 △昭和二十三年度に各府縣で施行した第一回全國保母試験問題を項目別に分類網羅したもので、併せて受験の手引、保母參考書も附してある。縣兒童課、保育所、保母養成所等に必備の書

發行所

東京都千代田區神田
神保町二丁目四番地

株式會社

フレーベル館

振替口座東京
一九六四〇番